

専門学校 湖東カレッジ  
日本語教育研究室紀要 2022

第2号



学校法人 湖東学園

## 目次

紀要第2号について	日本語教育研究室 馬場 良二 . . . . .	1
ネパール語母語話者の作文誤用分析 数字の表記と「農業」「農家」	日本語科 山下 晃 . . . . .	3
ひらがなとカタカナの混在について	日本語科 丸山 裕美 . . . . .	5
ネパール語母語話者による作文の誤用分析	国際ビジネス科 福永 裕子 . . . . .	8
ひらがなの字形について	国際ビジネス科 増田 愛 . . . . .	14
平仮名の字形についての考察	日本語科 今村 美佐子 . . . . .	19
助詞の使い方を中心に	日本語科 鮎田 美代子 . . . . .	22
日本語教材の分析－使役について	日本語教育研究室 馬場 良二 . . . . .	25
執筆者一覧 . . . . .		57
編集後記 . . . . .		57

## 第2号について

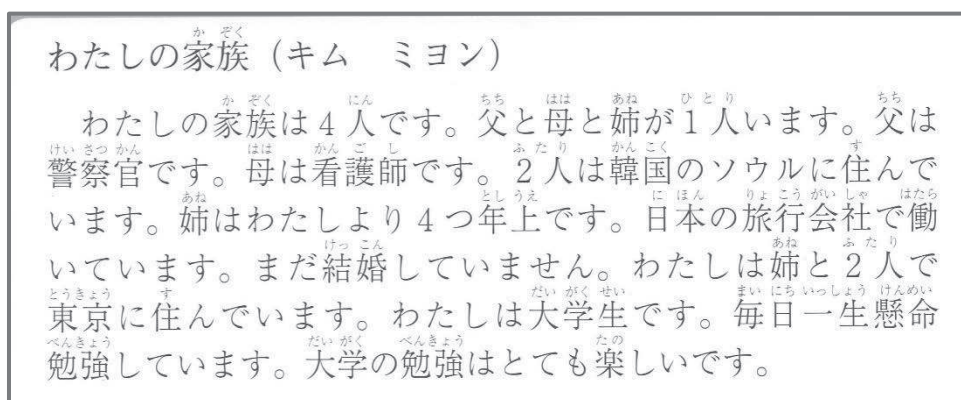
日本語教育研究室 馬場 良二

湖東カレッジは、学校法人 湖東学園の運営する専門学校で、系列に湖東カレッジ唐人町校があります。湖東カレッジは日本語科と IT 経済学科によって、湖東カレッジ唐人町校は国際ビジネス科、こども学科、こども未来学科によって構成されており、このうち日本語科と国際ビジネス科は外国人留学生のための科です。

現在、日本語科には 61 名、そして、国際ビジネス科には 15 名の外国人留学生がおり、彼らのための日本語の授業を 7 名の日本語教師が担当しています。

湖東カレッジには日本語教育研究室があり、湖東カレッジ、および、湖東カレッジ唐人町校の日本語教師全員が所属しています。研究室の業務は、研究員の授業力向上、そして、研究員による日本語、日本語教育研究です。

『専門学校 湖東カレッジ 日本語教育研究室 第2号』では、学習者の日本語作文の誤用分析 6 編と、使役についての日本語教材分析とを掲載しました。



作文を書いたのは、全員ネパール人で、母国で 150 時間の日本語を学習し、2022 年 4 月以降に来日した学生です。私たちの学校で採用している主教材『学ぼう！にほんご 初級 1』 p.95 にある「わたしの家族 (キム ミヨン)」を学習した後、書いてもらいました。

来日して 1 か月、あるいは、1 か月足らずの時期に、頑張ってくれました。簡単な文を連ね、誤り少なく書いていますが、仮名の字形がととのっていないことと漢字が使われていないことが残念です。進学や社会に出ることを考えると、文字の見た目は、大切です。とくに字形については、卒業まで根気強く指導していかなくてはなりません。

教師にとって一番大切なのは、教壇に立って教えることではありません。教壇を降りたところで、どれだけ勉強するかです。学習者を支援する人間は、学習者より勉強しなくてはなりません。

本校に勤務する日本語教師の学びの場として、紀要を編みました。みなさんからのご指導をお待ちしています。

2023 年 3 月

ネパール語母語話者の作文誤用分析  
数字の表記と「農業」「農家」

日本語科 山下 晃

学生情報：2022年4月生 国で150時間の日本語学習済み  
使用教材：『学ぼう！にほんご（初級I）』

10課 p.95「やってみよう」の「わたしの家族」についての作文を読んだあと、それぞれの家族についての作文を書かせた。

原文

なまえ ア ン ア イ ア

1行目 わたしの カ カ ク シ ゴ ニ ン ニ マ 。 チ チ ト ハ ハ ト 、 マ マ ト ト 。

2行目 オ ト ト ト 。 オ ト シ ハ 。 マ マ 。 チ チ ハ 。 ノ ウ キ ト ウ 。 マ マ 。 ハ ハ ハ ハ ハ 。

3行目 シ マ 。 マ マ 。 マ マ ト ト 。 オ ト ト ト 。 カ カ ク セ レ 。 マ マ 。 オ ト シ ノ

4行目 カ カ ク シ 。 ネ パ ー ル ノ バ ウ ア 。 ン ニ 。 マ マ 。 マ マ 。 マ マ 。

5行目 オ ト シ ノ 。 カ カ ク シ 。 オ モ シ マ 。 シ マ 。 マ マ 。

誤用分析担当者の所見

日本に来て1カ月程度なので漢字を使用していない。簡単な語彙、文法を使い短文をつなげてまとめている。また、文を書く際、助詞の後ろを少しあけて分ち書きをしている。それから、家族の人数をひらがなで「ごにん」と書いている。書き方には「ごにん」「五人」「5人」など三つあるが、ひらがなで書く学生が多かった。母語の表記習慣に従っているのだろうか。

## 誤用分析

### 原稿用紙の使用方法

初級段階の作文であるため升目なしの原稿用紙を使用。

- ① 一番上に「わたしのかぞく」とテーマを書く必要がある。
- ② 助詞の後、少しスペースをあける分がち書きが見られる。
- ③ 3行目の最後が少し空いている。

### 表記

行	本文	訂正	考察
1、4、5行目	かぞ	かぞ	「か」・・・1画目、2画目少し右にねかせて書く。3画目はもう少し長く書く。「ぞ」・・・1画目もう少し立てて書く。2画目、3画目の濁点を傍に書く。
1, 2, 4, 5行目	は	は	「は」・・・3画目、最後は横に伸ばす。
1, 2, 3, 4, 5行目	す	す	「す」・・・2画目、最後は下に伸ばす。
1行目	う	う	「う」・・・1画目に点を書く。
3行目	お	お	「お」・・・2画目は上に突き出して書く。
2行目	よ	よ	「よ」・・・1画目と2画目はつける。2画目がつぶれている。
3行目	ふ	ふ	「ふ」・・・1画目と2画目は離して書く。
3行目	い	い	「い」・・・2画目はもう少し長く書く。
名前、4行目	タ	タ	「タ」・・・3画目をつなげる。
5行目	ろ	ろ	「ろ」・・・たてて書く。

### 漢字

作文は漢字を使わずひらがなのみで書かれている。文章を書く上で漢字を使う習慣がないように伺える。

『学ぼう！にほんご（初級Ⅰ）』の漢字練習帳において、「五人」「父」「母」「妹」「弟」「学生」は既習の漢字だが、使われていない。勉強した漢字は使用するよう指導している。

本文

- ① わたしの かぞくは ごにんです。  
 ② ちちと、ははと、いもうとと、おとうとと わたしは います。  
わたしです。  
 ③ ちちは のうぎょう です。  
のうぎょうをしています。  
 ④ はははしゅふ です。  
 ⑤ いもうととおとうと とがくせいです。  
はがくせいです。  
 ⑥ わたしの かぞくは ネパールの バクタプルに すんでいます。  
 ⑦ わたしの かぞくは おもしろいと しんせつです。  
おもしろくてしんせつです。

文法

②	ちちと、ははと、いもうとと、おとうとと① <u>わたしは</u> います。	修正後	ちちと、ははと、いもうとと、おとうとと① <u>わたし</u> です。
修正の方法 A ちちと、ははと、いもうとと、おとうと、わたしです。 B ちちと、ははと、いもうとと、おとうとと、わたしがいます。 ※ちちと、ははと、いもうとと、おとうとと、わたしがいます。○ ちちと、ははと、いもうとと、おとうとと、わたしはいます。×			
③	ちちは② <u>のうぎょう</u> です。	修正後	ちちは② <u>のうぎょう</u> をしています。
修正の方法 A ちちは <u>のうぎょう</u> をしています。 所属を表す「～Vて形+います」 ※11 課で学習する。 EX) わたしは湖東カレッジで日本語を教えています。 B 「のうぎょう」を「のうか」にするとより適切な表現になる。 ちちは <u>のうか</u> です。			
⑤	いもうととおとうと③ <u>とがくせい</u> です。	修正後	いもうととおとうとは③ <u>がくせい</u> です。
修正の方法 A いもうととおとうとは <u>がくせい</u> です。 「X」は「Y」です。			
⑦	わたしのかぞくは④ <u>おもしろいと しんせつ</u> です。	修正後	わたしのかぞくは④ <u>おもしろくてしんせつ</u> です。
修正方法 A わたしのかぞくは <u>おもしろくてしんせつ</u> です。 ※11 課でい形容詞の場合「～くて」、な形容詞、名詞の場合「～で」で文をつなぐ学習をする。 10 課終了時点では学んでいないため、できていない。 名詞を「と」でつなぐので、動詞や形容詞も「と」でつないだと推測する。 既習文法うを使うなら、接続詞の「そして」を使う。 B わたしのかぞくは <u>おもしろい</u> です。そして、しんせつです。 とするとよい。			

ひらがなとカタカナの混在について

日本語科 丸山 裕美

学習者：ティワリ サディクチャ

原文

わたしの かぞく

なまえ ティワリ サディクチャ

わたしの かぞくは さんじん です。ちちと ははと

わたし。ちちは クンツン です。 はは は スュフ




です。ふたりは ネパールの ぶんたんに すんでいます。わたしは くらま

に すんでいます。わたしは コトカレツツの かくせい です。がっこうの

べんぎょうは とても ずいじ です。

- 1行 わたしの かぞくは さんにん です。ちちと ははと
- 2行 わたし。ちちは グンジン です。 はは は スユフ  
 (1)わたしです。 (2)ぐんじん (3)しゅふ
- 3行 です。ふたりは ネパールの ぶたルに すんでいます。わたしは くまもと  
 (4)ブトワル (5)い (6)も
- 4行 に すんでいます。わたしは コトカレツの がくせい です。がっこの  
 (7)い (8)ことう (9)ジ (10)い (11)がっこう
- 5行 べんきょうは とても たのしい です。  
 (12)い

## 《表記》

行	本文	訂正	考察
3行(6)		も	1画目が短いので少し長く書く
4行(9)		ジ	1画目と2画目が縦に書かれているので「ヅ」に見える。少し横にして書く
3行(5) 4行(7)(10) 5行(12)		い	2画目をもう少し長く書く

## 《誤用分析》

- (1)「です」が書かれていない。  
 →口頭では「です」と言うが、記述では書くのを忘れている。
- (2)平仮名と片仮名が混在  
 →学習者は、平仮名と片仮名を同時に勉強したため混在している。
- (3)「しゅふ」が「スユフ」と片仮名になっている。  
 →平仮名と片仮名どちらで書くのか勉強していないため平仮名で書くものを片仮名で書いた。
- (4)平仮名と片仮名が混在（正しい地名は、ブトワル）  
 →学習者は、平仮名と片仮名を同時に勉強したため混在している



(8)長音がない

→英語表記が *coto* なので「コト」で覚えていると思われる。(学校名はこの時点では練習していない)  
「う」が聞き取れず書けていない。

(11)長音がない

→がっこの「う」が聞き取れず書けていない。

《まとめ》

- ・作文の見本 (『学ぼうにほんご』 p.95) を見ながら丁寧に書けている。  
字もきれいに書けているがいくつか違った字に見える。(も・ジ・い)
- ・平仮名と片仮名が混在したのは、なぜかと、学習者に聞くと、平仮名と片仮名を同時に勉強したからだと答えた(学習者より聞き取り)。同時に学習すると混在する可能性があるので、平仮名を終わってすぐ片仮名を覚えるのではなく、時間をおいて学習したほうが良いと思う。
- ・何を平仮名で書くのか、片仮名で書くのか、この時点では学習していないので分からなかったと思う。  
現在、外来語は片仮名で書くなど学習しているので、区別して書けると思う。
- ・長音がないのはこの学習者に限ったことではなく多くの学習者に見られる。母語にない可能性が高いので聞き分けができず発音されていないかのように聞こえる。拍感覚がない学習者は慣れていないので難しいと思われる。別の言葉に聞こえるので拍を取る練習をしたほうが良いと思う。

ネパール語母語話者による作文の誤用分析

国際ビジネス科 福永 裕子

学習者：パンディ サンジュ（ネパール人）

2022年4月生

母国で日本語を150時間学習

教材：「学ぼう！日本語 初級①」

作文「わたしのかぞく」

原文

わたしの かぞく

なまえ パンディ サンジュ

わたしの かぞく は 4 人 です。 ちち と はは と おとこ が わたし です

ちち は 兄 <sup>ま</sup> です。 はは は のくげう です。 おとこ は ちち

へんきい に すんで います。 わたしの かぞく は、 ネパール の 2 人 だけ

すんで います。 まは " 1 人 だけ " して います。 わたし は " 1 人 だけ " だ

です。 わたしの かぞく は 1 人 だけ " です。 わたしの かぞく は

ネパール に すんで います。

## わたしかぞく

パンディ サンジュ

1. わたしのかぞくは4にんです。ちちとははとおとうとがわたしです。  
(1)と
2. ちちはビジネスマンです。はははのくげうです。おとうとはがっこう  
(2)ビジネス (3)マン (4)のうぎょう (5)がっこうで
3. べんきょうにすんでいます。 わたしのかぞくは、ネパールのみなみに  
(6)を (7)しています
4. すんでいます。 まだけっこんしていません。 わたしはにほんごがっくせい  
(8)にほんごがっこう (9)の (10)がくせい
5. です。わたしのかぞくはたのしいです。わたしがぞくは
6. ネパールにすんでいます。

## 【誤用分析担当者の所見】

筆者は日本に来て間もない学生ということで、初級レベルの学生だということが予測される。併せて、非漢字圏の学生であるためか、漢字が全く使われていないので、漢字に抵抗があるように思われる。また、単語（名詞）の間違いが多く見られ、「ビジネス」などの外来語の間違いは発音でそう聞こえているものを書いているのかもしれないと思った。更に句読点がなく、「。」のみとなっているので、日本語の文を書くときには句読点を必ず入れる様に指導したい。文字自体も他の学生の作文に比べると斜めになっていたり、文全体も斜めで安定していない。少し落ち着いて丁寧に書いたら改善される可能性もあるので、今後そのような指導をしていくと良いと感じた。

## 誤用分析

## 【作文の書き方】（本文波線部）

- ・句読点無く黒丸の点があるだけなので、読み易さの事も考慮し句読点を使うように指導する。
- ・3、6「ネパールにすんでいます」が2か所に書かれているため、不要な方を消すように指導する。
- ・4 「まだけっこんしていません」が文の前後に合っておらず「学ぼう！にほんご 初級1」のテキストの内容を抜粋した可能性が高い。前後に合った文を書くように指導する。

【表記】(本文囲み線部)

行	本文	訂正	考察
1.2.3.4		わ	2画目を1画目から繋げて一筆書きをしていると思われる。2画目を書き直すように指導する。
1.3.5		ぞ	真ん中の横棒が十分に伸ばされていないので、別の文字に見える。しっかり伸ばす様に指導する。
1.3.4.6		に	1画目に丸みがなく下に伸びすぎているので、左右のバランスが良くなる長さで書く様に指導する。
1.2		お	3画目を書き忘れている。忘れずに書き足すように指導する。
1.2.4.5		が	3画目が2画目に重なっているので離して書く様に、また濁点が短いので少し長めに書く様に指導する。
2		ビ	1画目の右側が急に上に上がっている。ここは上げずに真っすぐ書く様に指導する。
1.2.3.4.5.6		す	2画目を離し3画で書いている。3画目がアルファベットのgの見えるので繋げて書く様に指導する。
3		よ	2画目の○の部分が作られておらずカタカナのヒに見える。しっかり○を作る様に指導する。
3.4.5.6		い	2画目が上に上がり過ぎておりバランスが悪い。1画目の横の辺りに書く様に指導する。
3		み	1画目の○が書けておらず、数字の4にも見える。「よ」と同様に○をしっかり作って書く様に指導する。

### 【漢字】(本文網掛け部)

作者はこの作文を通常授業の中で『学ぼう！にほんご 初級1 第10課 p95 「やってみよう」』を参考にしたという事だが、作文中で取り上げている「人、父、母、学校、日本、学生」などの漢字はここで使用されていることから既習済ということが考えられる。また、「弟」という漢字もテキスト内で「姉」という漢字が使用されていることから、既習済と考えられる。「南」も『学ぼう！にほんご 初級1 漢字練習帳』の第4課で方角を学ぶので既習済と考えていいと思った。作者はこの作文の中で1つも漢字を使っていないことから漢字に抵抗があると考えられるので、テキストに載っている(特に簡単な)漢字から少しずつでも書いて練習していくように指導していくといいと感じた。

- 1 「にん」→「人」            1、2 「ちち」→「父」            1、2 「はは」→「母」  
1、2 「おとうと」→「弟」        2 「がっこう」→「学校」        3 「みなみ」→「南」  
4 「にほんご」→「日本語」        4 「がくせい」→「学生」

### 【語句】(本文傍線部)

- (1) が → と

作者は家族を紹介する際に全員を対等な関係で表現しようとしていることが、文を読んでいると分かる。しかし、「おとうと “が” わたし」とガ格を使用することで、「おとうと」と「わたし」が対等な関係でなくなる。よって家族紹介で全員を対等な関係で表現するには並列助詞である「と」を使用した方が適切であると考えられるので訂正する。

- (2) ビズネス → ビジネス

英語の「business (ビジネス)」を発音する際、この単語の発音記号が「[b`izness]」となり、この発音記号をそのまま読むと「ビズネス」なので作者は発音をそのまま書き記したと考えられる。

日本語の作文ではカタカナ英語(日本語訛りの英語の発音をカタカナで表現したもの)を使う事を指導しながらカタカナ英語を身に付けさせる。

- (3) まん → マン

平成3年に内閣告示された「外来語の表記」では、「外来語や外国の地名・人名を片仮名で書き表す場合のことを扱う」とある。以上のことから外来語は平仮名ではなく片仮名で書く様に指導する。

- (4) のくげう → のうぎょう

親の仕事の紹介で「のうぎょう」と書きたかったのだろうが、「のくげう」の表記になっていた。ここを訂正し、指導する。

【文法】(本文二重傍線部)

(5) (6) (7) 2.3 がっこうべんきょうにすんでいます

→がっこうでべんきょうをしています。

前文で両親の仕事の紹介を行っているので、当該文では弟の職業を紹介しているものと考えられる。しかし、職業の紹介でなぜ最後に「すんでいる」という動詞がくるのか、この理由を考えてみた。参考テキスト『学ぼう！にほんご 初級1 10課 p95「やってみよう」』を見てみると例文では両親の仕事の紹介の後に「二人は韓国のソウルに住んでいます」との記載があった。そして、その後に姉の紹介を行っている。作者は恐らくこの文を写して、両親の紹介の後に「～にすんでいる」という文を書いたと考えられる。「べんきょう」に続く動詞は『学ぼう！にほんご 初級1 第3課』で既に「する」になるということを学んでいるので、参考文と同じ様に「～ている」の表現(学ぼう！にほんご 第10課 p90で既習済み)に変更して「べんきょうしています」にする方が良いことを指導する。また、参考文の内容をもう1度理解させて、なぜ「すんでいる」では駄目なのか、意味の理解をしてもらう。

さらに「がっこう」と「べんきょう」の間の助詞が抜けている点に関しては、「何かが行われる場所などを示す場合」は格助詞の「で」が用いられることをもう一度確認させて、訂正・指導する。

(8) (9) (10) 4 にほんごがっくせい → にほんごがっこうのがくせい

作者は自分が日本語学校の学生であることを伝えたかったと予測されるが、この文では何となく意味は通じるが日本語としては不適切である。学生となると何かしらの学校に所属していると思われる。その為、最初に「にほんご」と書いたと思われるが、その後に続けて「がっこう」を書くことによって日本語学校に通っていると読み手は理解しやすい。また「日本語学校」と「学生」を繋げるために「所属・場所・所有者」を表す助詞の「の」を入れると正しい日本語の文として成立する。

また、なぜ「がっくせい」と促音が入っているのか?と考えた時に、恐らく作者は「にほんごがっこう」と書きたかたのでは?と思った。その途中で「がっこう」と「がくせい」が混ざって「がっくせい」という単語になったのではと予測した。作者には、書いた文を落ち着いて読み返しながらかいていくことを指導していくと良いと感じた。

【テーマ発表】

5行目 二重傍線部「わたしのかぞくはたのしいです」から

『形容詞「たのしい」の考察』

0. はじめに

初めてこの文を読んだときに、5行目の「わたしのかぞくはたのしいです」に対して、多少の違和感を感じたが、特に訂正をする必要はないと思った。なぜなら、実際にわたしも同じような言い回しを使ったことがあるからだ。自分で違和感を感じつつも、自分が使っているということで考察しなかったが、今回他の先生に指摘を受け「楽しい」の意味、使い方を改めて調べてみようとなった。

## 1. 形容詞の種類 【属性形容詞と感情形容詞】

形容詞には大きく分けて2つの種類がある。

「客観的な性質・状態・特徴」を表す【属性形容詞】 例) 長い 黒い 高いなど

「主観的な人の感情・感覚」を表す【感情形容詞】 例) 嬉しい 欲しい まぶしいなど

感情形容詞は基本的に1人称主語しか許されない。つまり、1人称以外が主語になる許容度は低く「そうだ」「みたいだ」などの話し手の判断を表す要素が必要となる。

例) 「私はうれしい」

「かれはうれしそうだ」

「楽しい」はそのものの状態を述べるため、感じる主体に三人称は来ないが、伝聞の文型「そうだ・らしい」や「がる」をつければ問題はない。しかし、「彼は楽しい人だ」の場合、「彼」は三人称だが、彼が「楽しいと感じていること」を述べているのではなく、彼の「属性」について述べているのである。

## 2. 属性感情形容詞

元は感情形容詞だが、感情を引き起こすものの性質を形容するときは感情形容詞を3人称でもつかえることがあり、そのことを「属性感情形容詞」と呼ぶ。「わたしのかぞくはたのしいです」の場合、「たのしい」と感じているのは作者であるが、作者が家族を「楽しい」と形容しているため、このような場合でも感情形容詞である「楽しい」を使うことができる。

## 3. まとめ

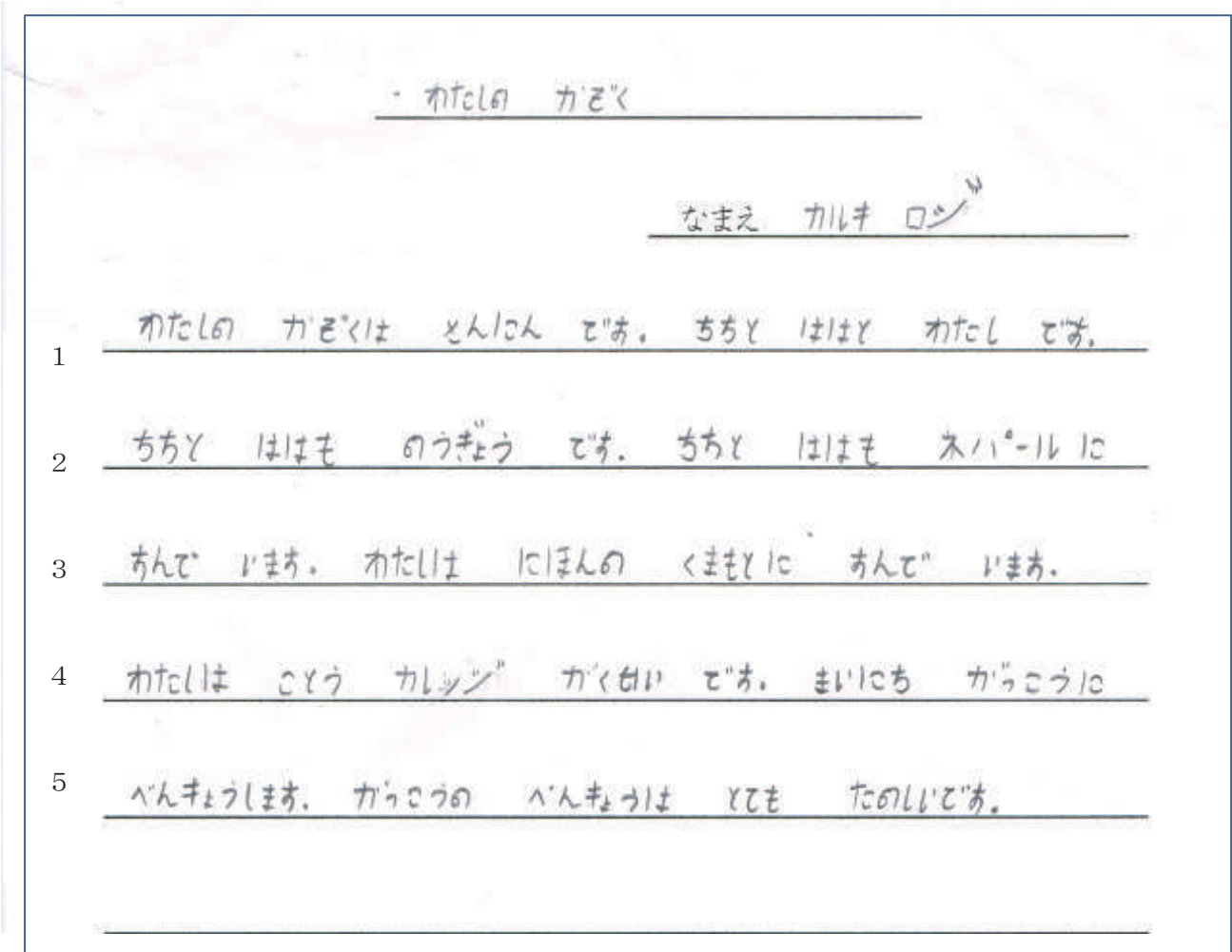
以上2点の考察から、主語が3人称であっても感情形容詞である「たのしい」を使うことは可能であるということが分かった。一見、違和感を感じる文であっても内容（作者が伝えたいことがなにか）を踏まえて読むと文として成立する。今回調べて、「感情形容詞」や「属性形容詞」という形容詞の種類があることが初めてわかり、私自身の勉強にもなり、また今後日本語学習者にもしっかりと説明できるためとてもいい機会であった。



## ひらがなの字形について

国際ビジネス科 増田愛

(作者の原文)



### 【誤用分析担当者の所見】

ひらがな一つ一つ、丁寧に書かれていて読みやすい。分かち書きの間隔も同じように配列され、罫線から文字がはみ出している箇所もないことから、作者は几帳面で真面目な人ではないかと思った。

### 【表記】

書き方のクセはあまり強くないが、濁点の位置や、ところどころ短すぎる一画が含まれている。

#### ■ひらがなの「き」とカタカナの「キ」の混同

平仮名と片仮名の字形の違いは理解していて、正しく書いている箇所もある。ばらつきがある。



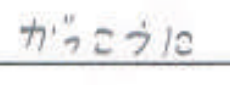
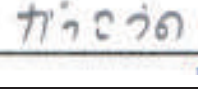
名前	2行目	5行目	5行目



- ・作者の名前 カルキ ロジ (○)
- ・2行目 のうぎょう (○)
- ・5行目 べんきょう (×)
- ・5行目 べんキ?きょうは (×) 4画目が極めて短い

■濁点の位置、長さ

濁点の位置が離れている。バランスの問題にとどまっている場合と、4,5行目の「がっこう」については、「が」の濁点の位置が促音「っ」の上に書かれる形になり、平仮名の「う」に見えてしまう。

名前		「ジ」 濁点が3画目の外に出過ぎている。
4行目		「が」 3画目と濁点と同じ長さ。 3画目を長く書く。
4行目		「が」 「っ」の上に「か」の濁点があり、平仮名の「う」に見える。
5行目		

■その他の平仮名

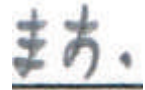
- ・「か」の3画目

もう少し長く書いた方がよい。



- ・「す」の2画目

丸めて書いたあと下におろし、できるだけ左にはらうように書くとよい。全体的に丸みを帯びすぎると「お」に近づく。特に、「す」が、「ます。」と文末にきた場合、句点「。」の書き方や位置によっては、この句点と連結して形の崩れた「お」のように見えることがあるので、注意する。



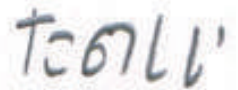
- ・「の」の出だしの位置

書き始めをまん中の位置からにするとよいのではないかと思います。



- ・「い」の2画目

1画目と2画目の幅が狭い。2画目を1画目の横に、もう少し長く書くとバランスがとれる。



- ・「せ」

そもそも、作者がどのように書いているか、一度確認する。1画目は横にもう少し長く書き、2画目はその内側に書く。



## 【文法・語彙】

(本文) ※作文全体の把握と、文と文を比較するため、原文を一文ずつ区切り列挙しています。

- a. わたしの かぞくは さんにん です。(○)
- b. ちちと ははと わたし です。(○)
- c. ちちと ははも のうぎょう です。(×)
- d. ちちと ははも ネパールに すんで います。(×)
- e. わたしは にほんの くまもとに すんで います。(○)
- f. わたしは ことう カレッジがくせい です。(×)
- g. まいにち がっこうに べんきょうします。(×)
- h. がっこうの べんきょうは とても たのしいです。(○)

### ■助詞の使い方 (本文下線)

#### 1. 「も」について

- c. ちちと ははも のうぎょう です。(×) →ちちとはは「は」
- d. ちちと ははも ネパールに すんで います。(×) →ちちとはは「は」

「も」は、前文に同じような状況の説明があつて、その後に付加する形で使う。dは、この文だけを読むと間違いではないが、作文全体でこの位置に助詞「も」を使うのは、不適切である。

#### 2. 名詞と名詞を結びつける「の」

- f. わたしは ことう カレッジがくせい です。(×)  
→ことう カレッジ「の」 がくせい

作者の所属先である学校名と学生をつなぐ「の」が抜けている。本文で正用もあり、なぜこの文だけ誤用したのか分からない。

- a. わたしの かぞくは～ (○) / e. にほんの くまもとに～ (○)
- h. がっこうの べんきょうは～ (○)

#### 3. 「に」と「で」の誤用

- d. ちちと ははも ネパールに すんで います。(○)
- e. わたしは にほんの くまもとに すんで います。(○)
- g. まいにち がっこうに べんきょうします。(×)

作者は、場所につく助詞が「に」だと覚えているのかもしれない。動作、行為の行われる場所を示す「で」に訂正する。

■ 語彙（本文太字、網掛け）

※本文から抜き出した c. f.の文について、助詞の誤用は訂正し平仮名は漢字に変換しています。

C. 父と母は **農業**です。(×)

F. 私は 湖東カレッジの学生です。(○)

「～は〈身分・職業〉です。」を使った表現で、「学生」だと正用なので、語彙の誤用として扱う。農業は【産業】を表す言葉で、人を表す言葉として使うのは違和感がある。

国名を入れて、このような文を作ると

ロジさんは ネパールです。(?)

ロジさんは ネパール人です。(○)

ロジさんは「人」で、イコール、ネパール【国】ではない。もし、これが会話の中で出身国の質問があった上で答える場合は、問題ない。おそらく、「ロジさん」の部分も省略され返答するのが自然だと思う。

A : Cさんの出身はどこですか？

B : ベトナムです。

A : ロジさんは？

B : (ロジさんは、) ネパールです。

原文の作文については、その前に質問する文もないため、以下のように訂正する。

訂正①「～は〈身分・職業〉です」の文型をいかにす。

C. 父と母は **農業**です。(×)

→ 父と母の仕事は 農業です。

訂正②「農業」をいかし、述部を「する」に変更する。

C. 父と母は **農業**です。(×)

→ 父と母は 農業をしています。

## 【まとめ】

誤用分析として、主に表記（文字の書き方）と文法に分けて分析しました。書き方について細かすぎるかと思いましたが、丁寧に書いている文字だからこそ修正しました。間違った書き方を繰り返し書いてしまうと、もったいないと思ったからです。現在、国際ビジネス科で教えていますが、文字にクセがなく丁寧に書いているだけで、答えの見栄えが違います。字が汚いと、採点してもらえない、減点されてしまうといった、学生にとって不利益につながります。日本語は、専門科目を習得する上でのツールでしかありません。にもかかわらず、クセを解読して読んでみると答えは合っているのに減点されていたら、とても残念です。

学習者の文字を全て修正することはできません。日本語母語話者であってもクセはありますから、詳細についてまで指導する必要はないと個人的には思っています。ただ、日本で生活する中で、この字は直した方が良いと思える「ひらがな」の数個は、初級のできるだけ早い段階で修正することが望ましいと思います。ポイントとなる部分に注意を促し、エラーを繰り返し書かないように指導し練習していけば、正しい字形になるのではないかと思います。

ネパール語母語話者の作文誤用分析

テーマ：「平仮名の字形についての考察」

日本語科 今村美佐子

わたしの かぞく

なまえ - ギリ ロシヤニ

わたしの かぞく は ごにん です。ちちと ははと いもうとと おとうと います。ちちは けいさつ かん です。ははは ハウスワイフ です。ははと いもうとと おとうとは ネパール に すんで います。ちちは インド に すんで います。いもうとは わたしより ひとつ としうえ です。おとうとは わたしより よっつ としうえ です。わたしは にほんご がくせい です。まいにち にほんご を べんきょう します。にほんごの べんきょうは とても たのしい です。

わたしの かぞく

ギリ・ロシヤニ

わたしの かぞく は ごにん です。ちちと ははと いもうとと おとうと います。ちちは けいさつ かん です。ははは ハウスワイフ です。ははと いもうとと おとうとは ネパール に すんで います。ちちは インド に すんで います。いもうとは わたしより ひとつ としうえ です。おとうとは わたしより よっつ としうえ です。わたしは にほんご がくせい です。まいにち にほんご を べんきょう します。にほんごの べんきょうは とても たのしい です。

1, 学習者について

氏名：ギリ・ロシャニ 女性

国籍：ネパール 母語：ネパール語

家族：父、母、本人、弟、妹 の5人

日本語学習歴：母国で約150時間日本語履修

日本語レベル：N5 レベル程度

湖東カレッジ 日本語科在籍、作文作成時は入学後約1ヶ月であった。

2, 担当者の所見

とても癖の強い字であり、判読不可能な字がみられる。

学習能力は高い方で、文法等の間違いもほとんどみられない。

気になる点は、履修したであろう漢字等を一切使用していない点、  
数字の表記がなく平仮名表記になっている点である。

3, 使用教材

『学ぼう！日本語（初級1）』第10課 p95「やってみよう」の「わたしの家族」についての作文。

4, 表記

- ① わたしの かぞく 字全体が傾いている。  
(わたしの かぞく) 「か」の字が極端に傾き判読不能。
- ② ゴ:ヒ=ハ 「ん」の字がアルファベットの「h」のようだ。  
(五人/5人)と数字で表記していない。
- ③ いもうと の「い」 ← この部分が極端に短く点のようである。「い」  
(いもうと)
- ④ おとうと の「お」の字が「す」のように見える。「お」と横幅を広くする。  
(おとうと)
- ⑤ としうえ の「え」の字に点が無い「え」  
(としうえ)
- ⑥ よっつ の語の真ん中の「っ」の字の大きさが同じ。  
(よっつ)  
「4つ/四つ」と数字で表記していない。
- この部分が点のよう  
に短い

⑦ にほんご の「ほ」が「しま」に見える。「ほ」  
(にほんご)

⑧ おとうと の字が正しくない。

※ネパールの学生は、机に対してプリント類を斜めにして書いたり、学生自身が体を捻って、斜めに書いたりする傾向があるようだ。

## 5, 文法

⑨ おとうと が います ⇒ おとうとがいます。助詞「が」が無い。

⑩ にほんご が くせい ⇒ にほんご が くせい  
(にほんご がくせい) 「がくせい」を入れた方が良い。

※にほんご がくせい。 正解

## 6, 語彙

① いもうとは わたしより ひとつ としうえ  
(いもうとは わたしより ひとつ としうえ)

※独自に私がインタビューした時点では、「妹⇒年下である」という認識はできていたので、単なるミスかと思ったが、作文を書いた当時は(年上/年下)の認識、(妹/弟)の認識が無かったのかもしれない。

※ いもうとは わたしより ひとつ としした 正解

② おとうとは わたしより よっつ としうえです  
(おとうとは わたしより よっつ としうえです)

これも②と同じであり書いた時点では年上、年下の認識が無かったのかもしれない。

※ おとうとは わたしより よっつ とししたです。 正解

まとめ：

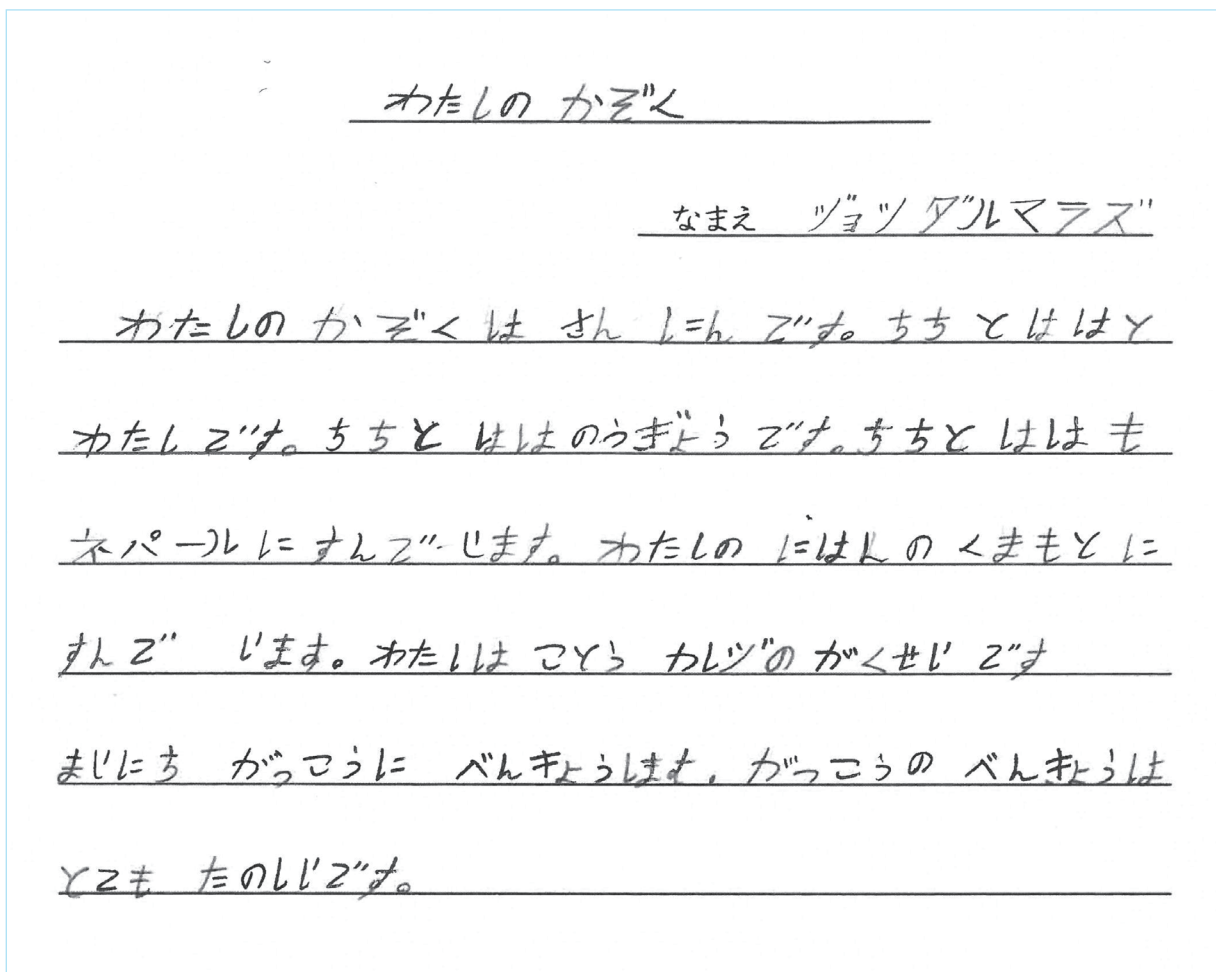
誤用分析として、表記(文字の字形)、文法、語彙の三項目を提示した。

ネパールの学生は筆記する際に机に対して斜めにプリントを配置したり、自分自身が斜めに傾いたりして書く傾向が見られる。これはネパール語の表記の影響だと思われる。

文字表記に関しては最初の取り組みの時点で書き順や表記の仕方等の指導を徹底することと、日頃の繰り返しの練習で補うことの必要性を感じた。表記の字形に対して文法や語彙の間違いが目立たないのは、日頃から文字表記より、文法や語彙の指導に重点が置かれている所以であろう。履修漢字に関してその使用が見られないのは、やはり漢字事態に苦手意識が働くのか、間違いを恐れているのか判断に困る。数字の表記に関しても履修しているはずなのに何故書かないかは、謎である。

## 1 学習者について

- ・国籍：ネパール
- ・2022年4月生
- ・国で150時間の日本語学習済み
- ・使用教材：『学ぼう！にほんご（初級1）』第10課、P.95「やってみよう」の家族紹介作文



## 2 所見

簡単な語彙を使って書いている。文字は丁寧に書いているが、いくつかの文字に特徴が見られる。文章の前半では分ち書きは少ししか見られないが、後半ではそれが明確になり、分ち書きを強く意識していることが分かる。また、ほとんどの文に句点をつけていることから、「一文」の概念はできている。今後の作文指導で、読点も習得できていくと思われる。ただ、近くの席の学生の文章に酷似していることから、文章を書くことに自信がないか、苦手と感じているのではないかと推察される。







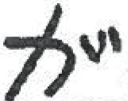





(本文)

- ① わたしの かぞくは さん にん です。
- ② ちち と ははと わたし です。
- ③ ちちと はは のうぎょう です。
- ④ ちちと はは も ネパールにすんで います。
- ⑤ わたしの にはん の くまもと に すんで います。
- ⑥ わたしは ことう カレジのがくせい です
- ⑦ まいにち がっこうに べんきょうします。
- ⑧ がっこうの べんきょうは とても たのしいです。

### 3 誤用分析

【表記】

行 (L)	本文	訂正	考 察
2, 6			間違い易いカタカナの一つである。文字の中心は横画ではなく、縦画であることを指導する。
5			2画目を書き忘れているので、訂正させる。
5, 6, 7, 8			1・2画目とも、斜めに倒すよう指導する。また、1画目と2画目が近すぎるので、もう少し離して書かせる。
6, 7			3, 4, 5画目が同じ長さになっているので、3画目をもう少し長く書くよう指導する。
4, 7			4画目を雑に書いたり、書き忘れていたりしている。一画があることを意識させ、丁寧に書くよう指導する。

- ⑥ 「ことう カレジのがくせい です」:句点が抜けている。他の句点は書けているので、書き忘れだと思われる。

【語句】

- ① 「さん にん」 → 「さんになん」:分ち書きのきまりはないが、数字に助数詞を付けて、一続きに発音させる。
- ⑤ 「にはん」 → 「にはほん」:単なる書き間違いか、日ごろから「にはん」と発音しているかは不明である。確認して、文字を訂正させるか、または、「にはん」と「にはほん」を正しく発音させ、それぞれの発音の違いを理解させる。

- ⑥ 「カレジ」→「カレッジ」: 促音が抜けている。促音を一拍の音と認識させるため、拍の取り方を次のように指導する。

(例) 「ねこ」: 1拍ずつ手拍子を打つ。「ねっこ」: “ね・こ” は、1拍ずつ手拍子を打ち、“っ” は、手拍子をしないで、グーの形にして1拍分にさせる。“っ” は、音を発しないが、拍があることを意識させる。

#### 【文法】

- ③ 「ちちと はは のうぎょうです」→「ちちと ははは のうぎょうです」  
: 主題を表す「は」が抜けている。“「A」は「B」です。”の文型を指導する。
- ③ 「ちちと はは のうぎょうです」→「ちちと ははは のうぎょうを しています」  
: 「農業」は、厳密には「産業名」であり、「医者・教師」などの職業名とは異なる。「農業」に「～をしている」をつけて、職業を表す文型を理解させる。
- ④ 「ちちと ははも ネパールにすんで います」→「ちちも ははも ネパールに すんで います」  
: 両親ともに、ネパールに住んでいることが分かるので、並列の「も」を用いるよう指導する。
- ⑤ 「わたしの にはん の くまもと に すんで います。」→「わたしは にはほんの くまもとに すんでいます」: 「わたし“の”」は、主題を表す「わたし“は”」を用いるよう指導する。
- ⑦ 「まいにち がっこうに べんきょうします。」→「まいにち がっこうで べんきょうします。」  
: ⑥で、自分が学生であることを述べている。学生の主な仕事は勉強である。つまり、⑦では、「勉強する」ことを伝える「学校に勉強(し)に行きます。」よりも、「勉強する場所」としての「学校」を述べたかっと思われる。よって、「動作」の場所を表す「で」という助詞を用いるように指導する。

#### 4 まとめ

本作文は、自分自身の力だけで書かれたものかどうかははっきりしないが、文字を丁寧に書いているところから、真面目に学習しようという姿勢が伝わる。文字を整った形で書けるようになり、助詞等の正しい使い方が定着してくれば、作文を書くことに対する自信が付き、書こうとする意志もさらに高まってくると思われる。

# 日本語教材の分析－使役について

日本語教育研究室 馬場 良二

## 0. はじめに

本稿では、日本語の「使役」について概観し、そのあと、日本語教材における使役の記述の仕方、取り上げ方を見ていきます。

文法を体系的に記述している教材として、『文化初級日本語』、『文化中級日本語』、『みんなの日本語初級』、『みんなの日本語 中級』、『学ぼう！にほんご 初級』、『*An Introduction to Modern Japanese*』（『IMJ』）、『初級日本語 げんき』、『できる日本語 初中級』、『できる日本語 中級』を取り上げました。

## 1. 日本語の「使役」について

グループ・ジャマシイ『日本語文型辞典』は、見出し語【させる】で、使役の形態的側面、意味的側面、そして、文型について記述しています。

冒頭で動詞の使役形の形態的側面について、「五段活用動詞の場合は、(略) 辞書形の末尾をア段に変えて「せる」を付ける」、「一段活用の場合は、(略) 語幹(略)に「させる」を付ける」、「「する」は「させる」、「来る」は「こさせる」になる」、「話しことばでは「行かす」「飲ます」「食べさす」などの形<sup>1</sup>が使われることもある」と述べ、使役文の格構造については、文型の記述(次頁参照)の中で述べています。

意味的用法には、以下の八つを挙げています(p.129)。

- <強制> 犯人は銀行員に現金を用意させた。
- <指示> 社長は秘書にタイプを打たせた。
- <放任> 疲れているようだったので、そのまま眠らせておいた。
- <許可> 社長は給料を前借りさせてくれた。
- <放置> 風呂の水をあふれさせるな。
- <介護> 子供にミルクを飲ませる時間です。
- <自責> 子どもを事故で死なせてしまった。
- <原因> フロンガスが地球を温暖化させている。

実際に使役しているのは、<強制>と<指示>だけでしょう。二つの違いは、<強制>では使役の対象が嫌がっていますが、<指示>ではタイプを打つことが本来の仕事です。残りの六つで、使役に近いのは、<許可>と<介護>でしょう。<許可>も、<介護>も、社長やそばにいる誰かが社員、子供に影響を与えているからです。ただ、<強制>、<指示>とことなるのは、<許可>、<介護>で前借りをすること、ミルクを飲むことは、社長やそばにいる人の望み、必要ではなく、社員の望み、および、子供の必要だという点です。そして、<放任>での使役者は、対象に対して何もしません。

---

<sup>1</sup> これらの形を、ここでは「縮約形」と呼んでいます。

<放置>と<原因>が他の用例と異なる点は、使役の対象がヒトではなく、モノやコトであって、意志がないこと、そして、この二つの間の違いは、<原因>では使役の主体、つまり、ガ格もモノやコトであって、意志がないことです。

<自責>は、使役者の意図とは反対の出来事が起きたという点で、最も使役らしくありません。子どもの死は、ガ格が望んだことではなく、望まなかったことです。

第2節以降、「0. はじめに」にあげた教材を見ていきます。そこにあらわれた使役を、『日本語文型辞典』の意味的8用法に分類していきます。この分類は、当該の使役文の現われた文脈やさし絵から私が判断したものです。

文型としては、以下の六つにまとめられています。長いですが、全文を引用します (pp.129-132)。

### 1 V-させる

#### a NがNにNを V-させる

- (1) 教師が学生に本を読ませた。
- (2) 犯人は銀行員に現金を用意させた。
- (3) A: 機械がまた故障なんですけど...

B: 申し訳ありません。すぐに係りの者を伺わせます。

- (4) 山田はひどい奴だ。旅行中ずっと僕に運転させて、自分は寝てるんだよ。

強制・指示・放任など、さまざまな意味を表す。他動詞を使った文「NがNをV(他動詞)」を使役の文「NがNにNをV-させる」に変えたもの。他動詞文の主語「Nが」は「Nに」となる。

#### b NがNを／に V-させる

- (1) 子どもを買い物に行かせた。
- (2) 社長は、まず山田をソファーにかけさせて、しばらく世間話をしてから退職の話の切りだした。
- (3) 最近は小学生を塾に通わせる親が多い。
- (4) 大きな契約だから、新入社員に行かせるのは心配だ。

強制・指示・放任など、さまざまな意味を表す。自動詞を使った文「NがV(自動詞)」を使役の文「NがNを／にV-させる」に変えたもの。自動詞文の主語「Nが」は「Nを」になることが多いが、「Nに」となることもある。

#### c NがNを V-させる <人>

- (1) 彼は、いつも冗談を言ってみんなを笑わせる。
- (2) 就職試験を受けなかったために、父をすっかり怒らせてしまった。
- (3) 私は子供の頃は乱暴で、近所の子をよく泣かせていた。
- (4) 二年も続けて落第して母をがっかりさせた。
- (5) 厳しくしつけすぎて、息子をすっかりいじけさせてしまった。
- (6) 子どもを交通事故で死なせてからというもの、毎日が失意のどん底であった。

「人が...するように仕向ける」「人が...する原因となる」という意味を表す。「泣く・笑う・怒る」など自分で行動を制御できない自動詞を用いた使役文。「NがV(自動詞)」の主語「Nが」は、使役文

で「Nを」となる。(5)は意図的に仕向けたり、その原因となったりしたわけではないが、保護する立場なのに引き起こしてしまった事態として自分を責める気持ちが表されている。

#### dNがNを V-させる <物>

- (1) シャーベットは、果汁を凍らせて作ります。
- (2) 打撲の痛みには、タオルを水で湿らせて冷やすとよい。
- (3) 貿易の不均衡が日米関係を悪化させている。
- (4) 金融不安が、日本の経済状態を悪化させる原因となっている。
- (5) 子供達は目を輝かせて話に聞き入っている。
- (6) 猫は目を光らせて暗闇に潜んでいる。

「物が...するように仕向ける」「物が...する原因となる」という意味を表す。「凍る」「湿る」のように対応する他動詞がない自動詞を、他動詞と同じように使う用法。(5)(6)の「目を輝かせる／光らせる」は慣用句的な表現。

#### 2V-させてあげる <許可>

- (1) そんなにこの仕事がやりたいのなら、やらせてあげましょう。
  - (2) 従業員たちもずいぶんよく働いてくれた。2、3日休みをとらせてやってはどうだろう。
  - (3) きのうの晩、ずいぶん遅くまで勉強をしていたようだから、もう少し休ませてあげましょう。
- 使役の表現と「あげる」「やる」などと組み合わせて、許可や放任を表す。

#### 3V-させておく <放任>

- (1) 甘えて泣いているだけだから、そのまま泣かせておきなさい。
  - (2) 注意したってどうせ人の言うことなんか聞こうとしないんだ。勝手に好きなことをさせておけばいいさ。
  - (3) 夕方になると急に冷え込みますから、あんまり遅くまで遊ばせておいてはいけませんよ。
- 使役の表現と「おく」を組み合わせて、放任を表す。

#### 4V-させてください <許可求め>

- (1) 申し訳ありませんが、今日は少し早く帰らせてください。
  - (2) A: だれか、この仕事を引き受けてくれませんか。  
B: ぜひ、私にやらせてください。
  - (3) A: 私が御馳走しますよ。  
B: いや、いつも御馳走になってばかりですので、ここは、私に払わせてください。
  - (4) 少し考えさせていただけますか。
  - (5) 期日については、こちらで決めさせていただけるとありがたいのですが...
- 使役の表現と「ください」「いただけますか」などの依頼の表現を組み合わせて、許可を求める意味を表す。(3)のように丁寧な申出としても使われる。

## 5 V-させて もらう／くれる <恩恵>

- (1) 両親が早く亡くなったので、姉が働いて私を大学に行かせてくれた。
- (2) 金婚式のお祝いに、子ども達にハワイに行かせてもらった。
- (3) 《結婚式のスピーチ》新婦の友人を代表して、一言ご挨拶させていただきます。
- (4) 《パーティーで》では、僭越ではございますが、乾杯の音頭をとらせていただきます。

使役の表現と「もらう」「くれる」などを組み合わせて、許可・放任などを恩恵として受けとめているという意味を表す。(3)(4)は、あいさつなどの前置きに使われる慣用的な表現で、その行為をすることを光栄に思っているという意味が含まれる謙譲表現。

## 6 V-させられる <使役受身> [NがNにVさせられる]

- (1) きのは、お母さんに3時間も勉強させられた。
- (2) 先輩に無理に酒を飲まされた。
- (3) この歳になって、海外に転勤させられるとは思ってもみなかった。
- (4) 山下さんは、毎日遅くまで残業させられているらしい。
- (5) きのはのサッカーの試合は、逆転に次ぐ逆転で最後までハラハラさせられた。

「XがYにV-させる」という使役文をYの視点から言い換えた受身文で、「YがXにV-させられる」となったもの。Xに強制されて行動するという意味で、Yが「迷惑だ・いやだ」を思っている場合に使う。「行く」「読む」など五段活用の動詞の場合は、「行かせられる」「読ませられる」の代わりに「行かされる」「読まされる」となることが多い。

1から6のうち、2から6は動詞の使役形に補助動詞か受身の助動詞が後接していて、それによって使役の用法が限定されています。

1のaからdで、aは述部動詞が他動詞、b、c、dは自動詞です。同じ自動詞ですが、bでは使役対象の名詞がヲだけでなくニをとることもある一方、c、dはヲしかとりません。

1のdには<物>とあります。これは、何かをさせる対象が物であることを示しているのですが、(3)、(4)の「日米関係」、「日本の経済状態」は、モノというより、コトです。1-dの<物>というのは、モノとコトの両方の概念を含んでいるのだと思います。

2から6のうち、6は<使役受身>とあり、これだけは意味、用法ではなく、形態的、文法的特徴を言っています。意味、用法であれば、<強制されて嫌だ>となるのでしょうか。ただ、6の(1)から(4)は強制されているし、嫌だと思っていますが、(5)は違います。ハラハラするように強制されているとは思えませんし、ハラハラしている人が嫌だと思っても考えられません。(5)は、1-cの(1)から(4)の例にみられる「人が...するように仕向ける」「人が...する原因となる」という意味を表す使役が受動態となったものです。

## 2. 『文化初級日本語 II』と『文化中級日本語 I』

2-1 『文化初級日本語 II』で、使役は、全34課の第33課で取り上げられています。

この課の本文「毎日家の手伝いをさせました」(p.157)では、アナウンサーがマラソン選手、高田広美の母親にインタビューするという場面を設定しています。第1節でみたように、使役には、いくつか



の用法があります。『文化初級』では、意味的 8 用法の中の＜強制＞を取り上げ、「使役」＝＜強制＞としています。だから、さし絵で、広美は嫌な表情を浮かべていますし（画像 1）、登場人物は、上下関係のはっきりした母と娘です。

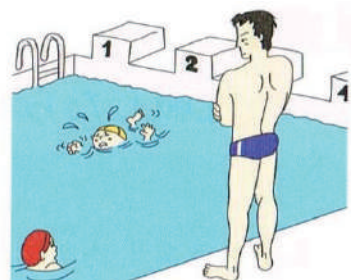


画像 1：『文化初級日本語 II』第 33 課、本文 1 の一部、p.157

本文の後の例文では、「お母さんは子供に野菜を食べさせる」（画像 2）、「お父さんは子供を泳がせる」（画像 3）など、＜介護＞、＜放任＞ともとれるものがありますが、さし絵を見ると、子供は嫌がっており、＜強制＞です。文法項目や文型にいくつか用法がある場合、代表的なものだけをまず導入するというやり方は、『文化初級日本語』の特徴の一つです。



画像 2：『文化初級日本語 II』第 33 課、p.158、「お母さんは子供に野菜を食べさせる」のさし絵



画像 3：『文化初級日本語 II』第 33 課、p.159、「お父さんは子供を泳がせる」のさし絵

第 34 課では、使役受身文が学習項目となっています。＜強制＞の用法の使役から、嫌だというニュアンスを持った使役受身（画像 4）へと発展させています。

いちろう <sup>たいいくけい</sup> 一郎：体育系か…。おもしろいけど、<sup>しんにゅうせい</sup> <sup>せんぱい</sup> 新入生は先輩にいろいろなことをさせられるから、<sup>たいへん</sup> 大変だよ。

チン：どんなことをさせられるんですか。

いちろう <sup>ぼく</sup> 一郎：僕はサッカー部<sup>ぶ</sup>だったんだけど、<sup>まいにちなん</sup> <sup>はし</sup> 毎日何キロも走らせられたり、<sup>ぶしつ</sup> 部室やグラウンドのそうじをさせられたりしたなあ。

画像 4：『文化初級日本語 II』第 34 課、本文 1 の一部、p.162

以下の「文型 1」（画像 5）の通り、五段動詞の使役受身形に縮約形<sup>2</sup>は、示されていません。

2-2 『文化中級日本語 I』の第 8 課では、画像 6 のように、使役受身形の縮約形が紹介されています。同時に、嫌だという感情のない、「驚かされた」が導入されています。

**文型 1** <sup>しんにゅうせい</sup> <sup>せんぱい</sup> 新入生は先輩にいろいろなことをさせられます。

**使役受身形**

<sup>しえきけい</sup> <使役形>		<sup>しえきうけみけい</sup> <使役受身形>	
<sup>あら</sup> 洗わせる	→	<sup>あら</sup> 洗わせられる	
<sup>い</sup> 行かせる	→	<sup>い</sup> 行かせられる	
<sup>た</sup> 食べさせる	→	<sup>た</sup> 食べさせられる	
<sup>さ</sup> させる	→	<sup>さ</sup> させられる	
<sup>こ</sup> 来させる	→	<sup>こ</sup> 来させられる	

画像 5：『文化初級日本語 II』第 34 課、文型 1、p.163

8 日本で暮らし始めてからは、<sup>かじょうほうそう</sup> <sup>なや</sup> 過剰包装に悩まされるようになった。

グループ 1 の動詞の <sup>なや</sup> 悩ませられる — <sup>なや</sup> 悩まされる  
 使役受身形 待たせられる — 待たされる  
 書かせられる — 書かされる

1. 昨日病院へ行ったら、込んでいて 1 時間も待たされた。
2. 野球をやっていた時は、毎日よく走らされた。
3. 話を聞いて、<sup>いがい</sup> 意外な事実<sup>じじつ</sup>に驚かされた。

画像 6：『文化中級日本語 I』第 8 課、表現・語句、p.190

<sup>2</sup> 五段動詞の使役受身の縮約形というのは、「洗わされる」、「行かされる」などです。



『文化初級日本語』でとりあげている使役の用法は、＜強制＞です。一方、『中級』では、以下のように「許可を表す使役形」（画像7）がとりあげられています。

2

重要な仕事もなかなかさせてもらえないし……。

●許可を表す使役形

1. 妻：友子がバレエを習いたって言うんだけど、習わせてもいいかしら。  
夫：そうだなあ。バレエは月謝が高いからなあ……。
2. 記者：ちょっと伺いますが、お宅のお子さんが、将来もし留学したいと言ったら、留学させますか。  
母親：ええ、危険じゃない所ならいいと思いますけど。
3. うちでは子供に甘い物を食べさせないようにしている。
4. この会社では、20年勤続すると海外旅行に行かせてもらえる。
5. うちの父は厳しくて、私は二十歳になるまで、夜、外出させてもらえなかった。
6. あのう、すみません。今日の講演を録音させていただきたいんですが……。

画像7：『文化中級日本語 I』第4課、文型、p.88

この「許可を表す使役形」を『日本語文型辞典』の分類に当てはめると、2は8用法の＜許可＞、4、5が＜恩恵＞の文型、6が＜許可求め＞の文型になります。1「習わせてもいい」、3「食べさせないようにする」は、『日本語文型辞典』にない文型です。文型を丁寧に採取するのも『文化』の特徴の一つです。

### 3. 『みんなの日本語 初級Ⅱ』と『みんなの日本語 中級Ⅰ』

3-1 『みんなの日本語 初級』では、全50課中の第48課であらわれ、8用法の＜強制＞、＜指示＞、＜放任＞、＜許可＞がとりあげられています。

「例文」（画像8）の1は＜強制＞、2は＜指示＞、3と4は＜放任＞か＜許可＞、5は＜許可＞です。

第48課には、「休ませて いただけませんか」というタイトルの会話が提示されています（画像9）。

「使役+テイタダケマセンカ」＜許可求め＞は、実用的だからでしょう。

## 例文

1. この サッカー教室は 練習が 厳しいそうですね。  
……ええ、毎日 子どもたちを 1キロ 走らせて います。
2. そろそろ 失礼します。  
……あ、ちょっと 待って ください。  
息子に 駅まで 送らせますから。
3. ハンス君は 学校の 勉強の ほか、何か 習って いますか。  
……ええ、柔道を したいと 言ったので、柔道教室に  
行かせて います。
4. 伊藤先生は どんな 先生ですか。  
……いい 先生ですよ。生徒に 好きな 本を 読ませて、  
自由に 意見を 言わせるんです。
5. すみません。しばらく ここに 車を 止めさせて  
いただけませんか。  
……いいですよ。

画像8：『みんなの日本語 初級Ⅱ』 p.188

## 休ませて いただけませんか

- ミラー : 課長、今 お忙しいですか。  
中村課長 : いいえ、どうぞ。  
ミラー : ちょっと お願いが あるんですが……。  
中村課長 : 何ですか。  
ミラー : あのう、来月 7日から 10日ほど 休みを 取らせて  
いただけませんか。  
中村課長 : 10日間ですか。  
ミラー : 実は アメリカの 友達が 結婚するんです。  
中村課長 : そうですか。  
ミラー : えーと、来月は 20日に 営業会議が ありますが、  
それまでに 帰れますね。  
ミラー : はい。  
中村課長 : じゃ、かまいませんよ。楽しんで 来て ください。  
ミラー : ありがとう ございます。

画像9：『みんなの日本語 初級Ⅱ』 p.189

3-2 『みんなの日本語 中級』では、全 24 課のうち第 7 課に 1-c<人>の用法が上がっています(p.89)。

- 1) 子どものとき、わたしはよく兄弟げんかをして弟を泣かせました。
- 2) 早く就職して、両親を安心させたいと思っています。

「泣く・笑う・怒る」など自分で行動を制御できない自動詞を用いた使役文(『日本語文型辞典』p.130)というのは、「アルバイト先で、客を怒らせてしまいました」など、使用場面が少なくありません。教材で取り上げるのは、適切な判断です。

中級では、使役受身が第 4 課(画像 10)と 7 課(画像 11)とで取り上げられています。第 4 課の使役受身は<強制されていやだ>、第 7 課は感情や思考の自動詞の場合です。用法の異なる使役受身を別々の課で提示しています。

#### 4. ~ (さ)せられる・~される

- 1) 会社の朝礼で、月に 1 回「最近思うこと」を話させられます。
- 2) 中学校に入ったとき、校歌を覚えさせられました。
- 3) 会社に入ったとき、3 か月間敬語の練習をさせられました。
- 4) 小学校のとき、本を読んだあと、いつも先生に感想文を書かされました。

画像 10: 『みんなの日本語 中級 I』第 4 課文法・練習、p.46

#### (2) ~ (さ)せられる・~される

- 1) 子どものとき、よく近所の子どもにいじめられ、泣かされました。
- 2) テレサちゃんは小さい子どもたちの世話をよくするので、いつも感心させられる。
- 3) あの事件のことを聞いて、親と子の関係についてあらためて考えさせられた。

画像 11: 『みんなの日本語 中級 I』第 7 課文法・練習、p.89

#### 4. 『学ぼう! にほんご 初級 2』

全 40 課のうちの第 39 課の扉に以下の例文があります (p.155)。

先生は 学生に 本を 読ませました。  
母親は 子どもを 買物に 行かせます。  
今日は 早く 帰らせてください。

画像 12: 『学ぼう! にほんご 初級 2』第 39 課の扉、p.155

第 1 文は他動詞、第 2 文は自動詞、第 3 文はテクダサイが接続した例ということでしょう。これらの



例文に合わせて、「～せます。／～させます。使役(1)」(pp.156-157)、「～せます。／～させます。使役(2)」(pp.158-159)、「～させてください。／～していただけませんか。」(pp.160-161)の「基本文」と「練習」があります。

「～せます。／～させます。使役(1)」と「～せます。／～させます。使役(2)」の「練習」の2を以下に示します。

- 2 例；先生「本を 読みましょう」→学生が 本を 読んだ。  
 → 先生は 学生に 本を 読ませました。
- (1) 先生「作文を 書きましょう」→学生が 作文を 書いた。  
 (2) 校長先生「日本語で 自己紹介を しましょう」  
 →みんなが 日本語で 自己紹介を した。
- (3) コーチ「校庭を 走れ」→選手が 校庭を 走った。  
 (4) コーチ「トレーニングを しろ」→選手が トレーニングを した。
- (5) 部長「書類を コピーしてください」→秘書が 書類を コピーした。  
 (6) 課長「資料を 集めてください」→部下が 資料を 集めた。  
 (7) 母親「にんじんを 食べなさい」→子どもが にんじんを 食べた。  
 (8) 兄「僕のパソコンを 使わないでくれよ」→弟が パソコンを 使わなかった。

画像 13：『学ぼう！にほんご 初級 2』「～せます。／～させます。使役(1)」の練習 2、p.156

先生が「本を読みましょう」と言い、学生が本を読んだ、という事象をの使役文で言うと、「先生は学生に本を読ませました」となる、という練習です。

発言部分の述部の形は、「例」、(1)、(2)がV-ましょう、(3)、(4)が動詞の命令形、(5)、(6)がV-てください、(7)がV-なさい、(8)がVの否定-てくれよです。V-ましょう、V-てくださいと発話して、何かをさせたのなら使役の用法は<指示>、動詞の命令形、および、V-なさいなら<強制>、否定-てくれよと発話して、使わせなかったときの使役文は「使わせませんでした」で、この使役の用法は<許可>でしょう。

「～せます。／～させます。使役(1)」は他動詞の使役文を取り上げていると思うのですが、その練習 2 (画像 14) の(3)の動詞は「走る」です。「走る」は自動詞ですから「選手を走らせる」も可能です。

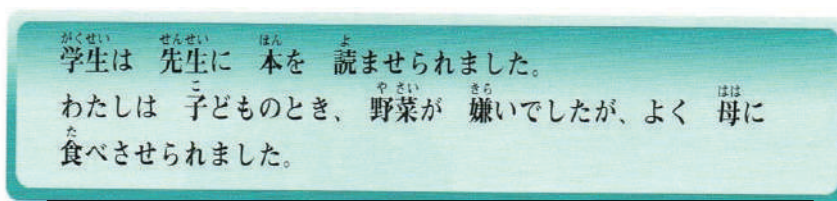
- 2 例；子どもが 買物に 行きます。→ 子どもを 買物に 行かせます。
- (1) 社員が 日曜日にも 働きます。 (2) 息子が アメリカへ 留学します。  
 (3) 子どもが お風呂に 入ります。 (4) 鈴木さんが 大阪に 転勤します。  
 (5) 部下が 九州へ 出張します。 (6) 妹が 家で 遊びます。  
 (7) 佐藤さんが うちへ 帰ります。 (8) 弟が 郵便局へ 行きます。

画像 14：『学ぼう！にほんご 初級 2』「～せます。／～させます。使役(2)」の練習 2、p.158

ただ、「校庭を」があると、「選手を校庭を走らせる」となり、落ち着きません。それで、「走る」を「使役(1)」の練習にくわえたのでしょう。

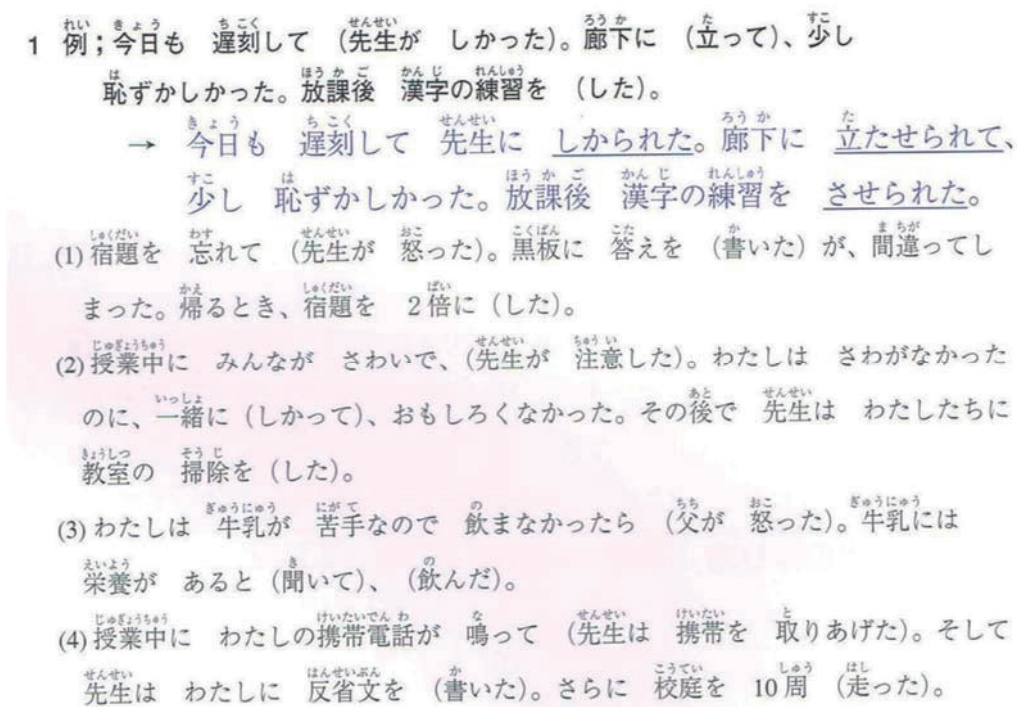
「使役(1)」の練習2では、使役者の発話がどうであったかという場面がありますが、「使役(2)」では、元の文があるだけです(画像14)。「例」と(1)、(3)、(4)、(5)、(8)は<強制>とも<指示>ともとれます。(2)は、<指示>か<許可>でしょうか。もしかしたら、<強制>かもしれません。(6)は、<放任>でしょうか。ずいぶん年の離れた姉か兄を想定しなくてはなりません。(7)は、<強制>なのか、<指示>、<放任>、<許可>なのかわかりません。場面があまりに少ないからです。

最後の課、第40課で使役受身文が紹介されます(画像15)。



画像15:『学ぼう!にほんご 初級2』第40課の扉、p.163

p.166の「受身・使役・使役受身の総まとめ」を見ると、嫌だというニュアンスを持った使役受身文のみを取り上げていることが分かります。

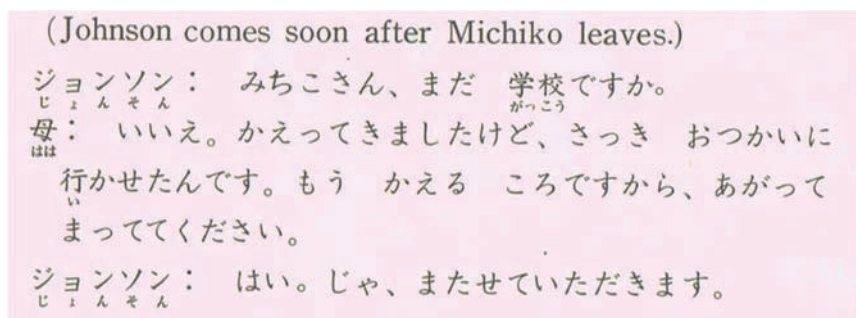


画像16:『学ぼう!にほんご 初級2』第40課の「受身・使役・使役受身の総まとめ」、p.166

なお、『学ぼう!にほんご 初級』では、使役受身の縮約形は、扱っていません。

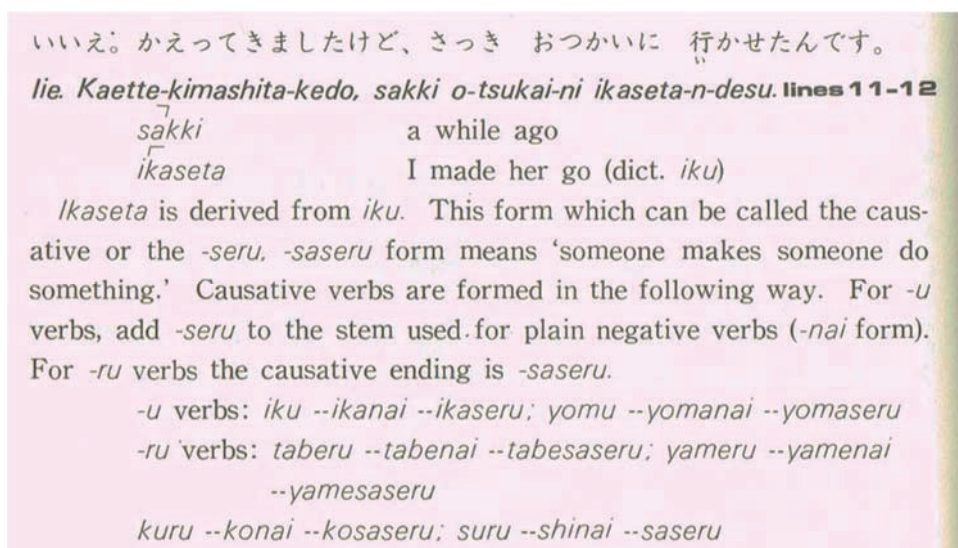
5. 『An Introduction to Modern Japanese』 (『IMJ』)

全 30 課のうちの第 23 課に現れ、<指示>「おつかいに行かせた」と<許可>「またせていただきます」の用法が取り上げられています。



画像 17: 『IMJ』 第 23 課、Dialogue、p.284

使役形については、次のような説明があります。



画像 18: 『IMJ』 第 23 課、Explanation、p.288

さらに、p.291 には、「Note On the causative form」として、以下のような記述があります。

The causative form when used to mean 'make someone do something,' implies that force is involved. Therefore this form is usually reserved for describing situations in which a superior has an inferior do something, for example, when a teacher has pupils do something, a parent makes his child do something, or when an elder sibling makes a younger brother or sister do something. It is also sometimes used when a man makes his wife do something.

使役形は、上位者が下位者に何かをさせるときに用いられ、だから、「力」が内包される、とあります。上記の Dialogue では、母親が娘をお使いに行かせています。Dialogue の前段で、「ちょっとおつかいに



行ってきてくれない？」と話しかけているところから、「力」が内包されると言っても、強制的ではありません。ここでは、＜指示＞の用法だと考えました。

ジョンソンさんの「またせていただきます」は、-テイタダキマスが接続した、使役の＜許可＞の用法でしょう。pp.288-289には、「the causative form plus *-te-itadaku* literally means 'I am given the kindness of permitting me to do something.'」という説明があります（画像 19）。

はい。じゃ、またせていただきます。 line 14  
*Hai. Ja, matasete-itadakimasu.*  
*matasete-itadakimasu* I will wait for her (humble)  
This expression shows a different use of the causative form. *Mata-seru* is the causative form of *matsu*. Here, the causative form plus *te-itadaku* literally means 'I am given the kindness of permitting me to do something.' The corresponding English expression might be 'with your permission I will do something' or 'since you kindly permit me, I'll go ahead and do something.'  
ex. A: *Doozo o-kake-kudasai.* (Please sit down.)  
B: *Hai, dewa kakesasete-itadakimasu.* (Thank you. I will.)  
The causative form plus *-te-kudasai* or *-te-itadakitai-n-desu-ga* can be used to make a request.  
ex. *Sumimasen-ga, kyoo-wa moo kaerasete-kudasai.* (I'm sorry, but I'd like to be excused for today.)  
*Kono denwa-o chotto tsukawasete-itadakitai-n-desu-ga.* (I'd like to use this telephone, if you don't mind.)

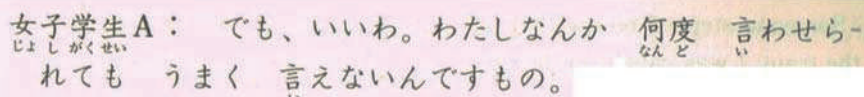
画像 19 : 『IMJ』 第 23 課、「待たせていただきます」の説明、pp.288-289

課長： そんな わけて、だれかに 調査してもらいたいんだ  
が。  
鈴木： ぜひ ほくに やらせてください。  
課長： でも、君は ほかの 仕事があつて いそがしいん  
じゃ ないか。  
鈴木： いいえ、あちらは たいした こと ありません。き  
ようじゅうに かたづけます。  
課長： そうか。  
鈴木： はい。この 仕事には 興味があるんです。  
課長： じゃ、鈴木君に やってもらおうか。だが、いま 鈴  
木君が やってる 仕事の ほうは、だれかに てつだつて  
もらわなければ ならないだろう。  
松本： わたしで よかったら おてつだい させてください。

画像 20 : 『IMJ』 第 23 課、Dialogue、pp.284-285

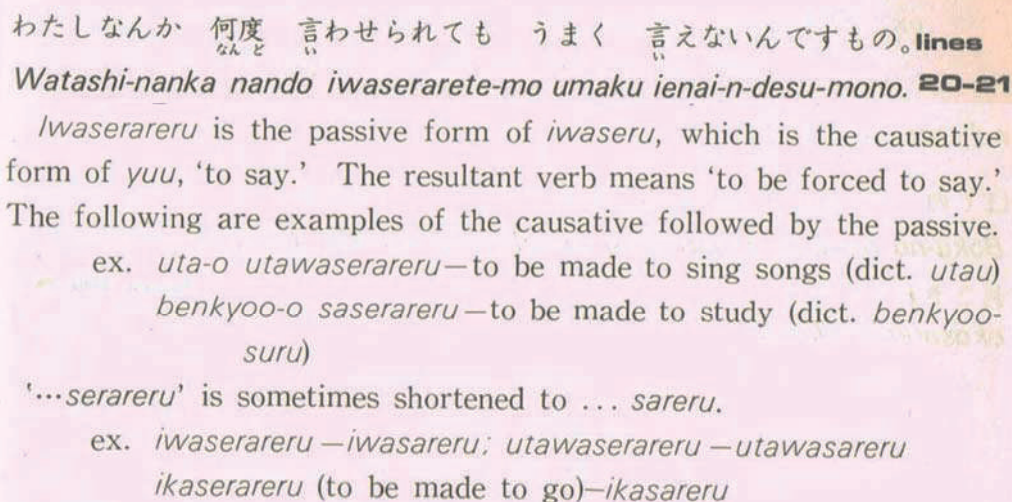
この説明にある「使役形+てください」は、画像 20 の Dialogue の後半に現れています。

続く第 24 課には、使役受身が提出され、セラレルは、ときどき、サレルに縮められるという説明があります (画像 22)。



女子学生 A : でも、いいわ。わたしなんか 何度 言わせられても うまく 言えないんですもの。

画像 21 : 『IMJ』第 24 課、Dialogue の一部、p.301



わたしなんか 何度 言わせられても うまく 言えないんですもの。lines  
**Watashi-nanka nando iwaserarete-mo umaku ienai-n-desu-mono. 20-21**  
*Iwaserareru* is the passive form of *iwaseru*, which is the causative form of *yuu*, 'to say.' The resultant verb means 'to be forced to say.' The following are examples of the causative followed by the passive.  
ex. *uta-o utawaserareru*—to be made to sing songs (dict. *utau*)  
*benkyoo-o saserareru*—to be made to study (dict. *benkyoo-suru*)  
'...saserareru' is sometimes shortened to ... *sareru*.  
ex. *iwaserareru* —*iwasareru*; *utawaserareru* —*utawasareru*  
*ikasarerareru* (to be made to go)—*ikasareru*

画像 22 : 『IMJ』第 24 課、使役受身形の説明、p.305

## 6. 『初級日本語 げんき II』

全 23 課のうちの第 22 課に現れています。『げんき』では、使役形について、「Any causative verb can be interpreted either with the “make somebody do” reading or with the “let somebody do” reading」(pp.202-203) と説明しています。つまり、日本語の使役は、英語の“make somebody do”か“let somebody do”のどちらかの意味に分類されるということです。

また、形態的には、「先生は 学生に 会話を覚えさせました」の「先生」を director、「学生」を cast、「会話を覚えさせました」を action とし、cast は、普通、「に」をとるとしています。そして、cast が「を」をとる使役として、p.203 の注 2 に「私はその子供を泣かせてしまいました」、「アレンさんはおもしろい映画を作ってみんなを笑わせました」と、「先生は私をトイレに行かせました」、「その人は私をそこに座らせました」をあげています。

Dialogue ① (画像 23) には、“let somebody do”の意味で、「行かせる」が、Dialogue ③ (画像 24) には、“make somebody do”の意味で「行かせる」、「習わせる」、「let somebody do」の意味で「遊ばせる」が現れています。



Ⅰ Mary's host mother and host sister Yumi are talking.

- 1 お母さん： ゆみ、勉強しなさい。来週は期末試験があるのにぜんぜん勉強して  
かないでしょ。  
2  
3 ゆみ： お母さん、私、もう十七なんだから、少しほっておいてよ。  
4 お母さん： 今、がんばっておけば、いい大学に入れて、後で楽になるんだから。  
5 ゆみ： 私、別にいい大学に行けなくてもいい。  
6 お母さん： お父さんとお母さんはあなたをいい大学に行かせてあげたいの。お母  
さんのうちは貧乏だったから、大学に行かせてくれなかったのよ。  
7  
8 ゆみ： わかった、わかった。その話、もう何度も聞いた。

画像 23 : 『げんき』第 22 課、Dialogue ①、p.198

Ⅲ The next day Mary and Takeshi are on a date.

- 1 メアリー： うちのゆみちゃん、高校生なのに忙しく  
て、ぜんぜん遊ぶ時間がないみたい。  
2  
3 たけし： 子供も大変だけど、親も大変だと思うよ。塾に行かせたり、英会話を習  
わせたり、お金がかかるだろうなあ。  
4  
5 メアリー： たけしくんも子供の時、ゆみちゃんのように塾に行ってた？  
6 たけし： ぼくはずっと遊んでた。自分の子供にも、のんびり遊ばせてあげたい  
なあ。  
7  
8 メアリー： でも、日本で子供を育てるのは大変そうだね。

画像 24 : 『げんき』第 22 課、Dialogue Ⅲ、p.198

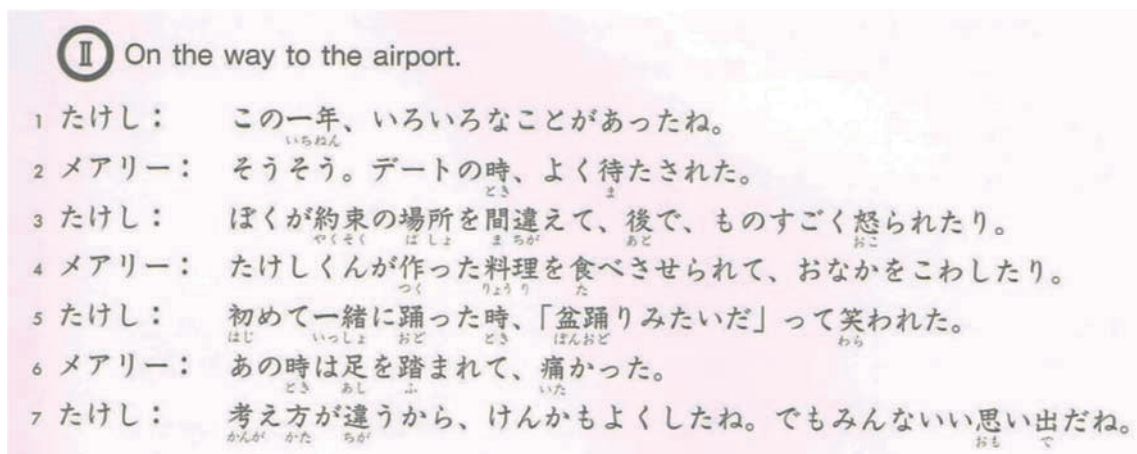
さらに、p.203 では、「you cannot tell simply from the sentences below in isolation whether they describe an authoritarian parent (forcing the children to eat what they do not want) or a doting parent (allowing the children to have what they want). Only our general knowledge about the parents and the linguistic context of the sentence solve the issue.」と述べ、「お父さんは 子供に 野菜を食べさせました」「お母さんは 子供に 本を読ませました」の 2 例をあげています。

これらの例が“make” causative なのか“let” causative なのかは、状況、場面がなければわかりませんが、「If the helping verb てあげる、てくれる、or てもらう follows a causative verb, you can assume in almost all cases that it is a “let” causative .」だとしています：「先生は 私に 英語を話させてくれませんでした」、「私は 自分の子供に 好きな所に行かせてあげるつもりです」(p.203)。

p.203 では、説明「You can use the causative + てください to ask for permission to do something and to volunteer to do something」、例文「私にこの仕事をやらせてください」とともに、文型「動詞の使役

形+てください」を紹介しています。

使役受身文は、Dialogue② (画像 25) に現われ、その意味については、例文「(下手だから歌いたくなかったのに) 歌を歌わされました」、「(きれいだから食べたくないんですが、いつも) 肉を食べさせられます」とともに、画像 26 のような説明があります。



画像 25 : 『げんき』 第 23、Dialogue ②の一部、 p.220

“Causative-passive” sentences are the passive version of causative sentences. You can use causative-passive sentences when you want to say that you were made to do, or harassed or talked into doing, something that you did not want to.

画像 26 : 『げんき』 第 23 課、使役受身文の意味的説明、 p.224

五段動詞の使役受身形は、「Drop -u and add -asare-ru」とあり、縮約形を学習するようになっています。

### 7. 『できる日本語 初中級』と『できる日本語 中級』<sup>3</sup>

7-1 『できる日本語 初中級』の各課の構成は、冒頭の「聞いてみよう」、そして、「チャレンジ！」の「状況イラスト」と「コマイラスト」、コマイラストが扱う文法項目に対応する「言ってみよう」と「言ってみよう別冊」、「話読聞書」です。

『初中級』では、第 13 課で使役形を取り上げ、そのタイトルは「親の気持ち・子の気持ち」です。親から子への<指示>、<放任>、<許可>が語られ、<強制>、<放置>、<介護>、<自責>、<原因>の用法は、見られません。

第 13 課には、二つの「チャレンジ」があり、一つは「町で見かけた子どもたち」、もう一つは「思い出すと」です。

第 13 課の一つ目のチャレンジ (第 13 課-1) の「状況イラスト」は、二人の学生が「学校からの帰り

<sup>3</sup> 『できる日本語 初級』は、使役を取り上げていません。

道、



画像 27 : 『できる日本語 初中級』、第 13 課-1 「町で見かけた子どもたち」の状況イラスト、pp.178-179

塾の前を通りかかりました。そこにいる子どもや親たちを見ながら話しています」という場面(画像 27)、二つ目のチャレンジ(第 13 課-2)の状況イラストは、友だち二人が子どもの頃の思い出を話している場面で、前者では、親が子どもにサセルことを客観的に描写し、後者では、子が親にサセラれたこと、サセテモラったことを思い返します。

それぞれに「コマイラスト」が三つあります。第 13 課-1 のコマイラスト①の文法項目は使役形、②は「～のを見た」、③は「(過去において) -ていた」で、それぞれに対応する練習として「言ってみよう」①～③と、「言ってみよう別冊」①～③があります。そして、第 13 課-2 のコマイラスト①の文法項目は「動詞のテ形+ばかりいる」、②は使役受身、③は「使役形+テクレル/テモラウ」です。

### 7-1-1 「聞いてみよう」

「聞いてみよう」は、各課での学習項目を盛り込んだ会話文で、その課の導入時と振り返り時に聞くようになっています。そのスクリプトは、画像 28 の通りです。

形態的には、裸の使役形「食べさせ」、補助動詞テクレルと結びついた「させてくれ」、使役受身形「手伝わされ」の三つが現れています。このうち、「食べさせ」の用法は<指示>、「させてくれ」の「させ」は<許可>です。



ワン：この間も子どもがコンビニでお弁当を買っているのをテレビで見たよ。

ナタポン：そうなんだ。子どもには、ちゃんと栄養があるものを食べさせたほうがいいのに。

ワン：そうだね。

ナタポン：それに、僕が子どものころは食事は家族みんなでしたよ。

いろいろなことを話しながらする食事は、とても楽しかった。

ワン：へえ。でも、最近は日本でもお父さんもお母さんも忙しいみだから、仕方がないと思うよ。私も子どもころ、両親が働いてて、祖母と一緒に食事をしてたよ。1人じゃないから、寂しくなかったけど。

ナタポン：へえ。ワンさんのおばあさんはどんな人だったの？

ワン：うーん、優しかったよ。おもちゃをたくさん買ってくれた。

ナタポン：ふーん。

ワン：それに、何でも好きなことをさせてくれた。

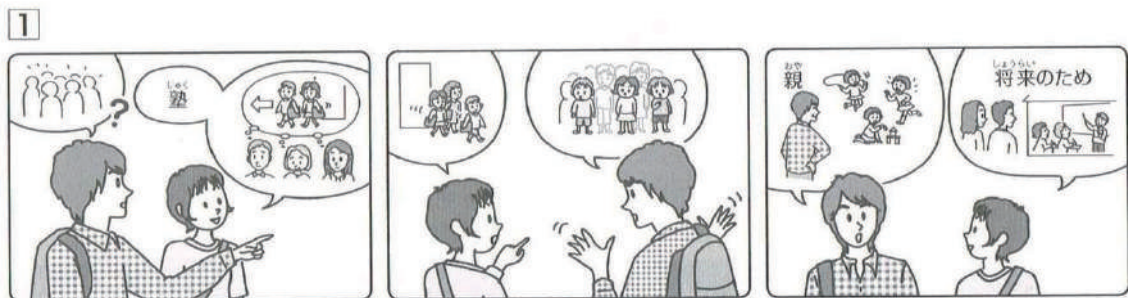
ナタポン：へえ。僕は子どもころ、漫画ばかり読んでて、よく叱られたよ。

ワン：そうなんだ。私はあまり叱られなかったけど、家事はよく手伝わされたよ。

画像 28：『できる日本語 初中級』第 13 課、「聞いてみよう」のスキプトの一部、p.177

#### 7-1-2 第 13 課-1 のコマイラスト 1

コマイラスト 1 には、＜放任＞、＜許可＞の「遊ばせる」と＜指示＞の「習わせる」が現れています（画像 29）。



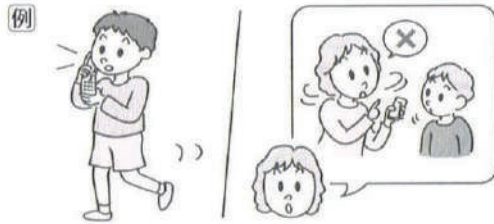
- 1 マルコ：あ、あそこ。人がたくさん集まってるね。あれ、何？
- パク：ああ、塾だよ。子どもを待ってるの。ほら、子どもたちが出てきたよ。
- マルコ：わあ、小さい子どももたくさんいるね。
- パク：そうだね。
- マルコ：私が親だったら、小さいときはもっと子どもを遊ばせるけど……。
- パク：そっか。でも、あの子のお父さん、お母さんはあの子の将来のために、いろいろ習わせてるんだと思うよ。
- マルコ：そうだけど……。

画像 29：『できる日本語 初中級』第 13 課-1 のコマイラスト 1 とそのスキプト

7-1-3 第13課-1の「言ってみよう」①

第13課-1のコマイラスト①の練習である「言ってみよう」の①の使役は、<許可>です(画像30)。

- ① 例) A: あ! 子どもが携帯電話で話しながら歩いて(い)るよ。  
 B: わあ。私が親だったら、子どもにあまり携帯電話を  
使わせないのに。  
 A: そうだね。でも、携帯電話を持って(い)るとすぐ連絡できるから、  
いいと思うよ。 ☺



画像30:『できる日本語 初中級』第13課-1、「言ってみよう」①の「例」、p.180

7-1-4 第13課-1の「言ってみよう別冊」①、練習2

親や先生、コーチが子どもや学生、選手に何かをさせる意の文を作る練習です。さし絵を見ると、子どもも学生も嫌な顔をしていません。<指示>の用法の使役文を作る練習でしょう。

練習2

例)



⇒ 親は子どもを塾に通わせます。



練習2

- ① 親は子どもを5時までにうちへ帰させます。
- ② 先生はマルコさんを立たせます。
- ③ コーチは選手を毎日、10キロ走らせます。
- ④ コーチは選手を毎日、2時間泳がせます。

画像31:『できる日本語 初中級』第13課-1、「言ってみよう別冊」①の練習2、p.48、とその答え例

7-1-5 第13課-1の「言ってみよう別冊」**1**、練習4、5

ガ格の人物がヲ格、ニ格の人物のために思って何かをさせています。＜指示＞、＜許可＞、＜放任＞の使役文の作成練習です。

**練習4**  
例)



⇒ コーチは選手を(に)休ませます。

コーチ・選手

①



親・子ども

②




母親・子ども

③



親・子ども


**練習5**  
例)



⇒ 母親は娘に好きなものを買わせます。


母親・娘 好きなもの

①



父親・息子 車

②



父親・息子 自由に

**練習4**

- ① 親は子どもを／に旅行させます。
- ② 母親は子どもを／に公園で遊ばせます。
- ③ 親は子どもを／に留学させます。

**練習5**

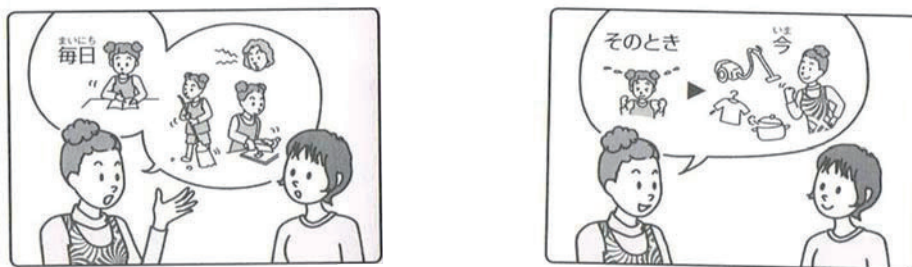
- ① 父親は息子に車を運転させます。
- ② 父親は息子に自由にゲームをさせます。

画像32：『できる日本語 初中級』第13課-1、「言ってみよう別冊」**1**の練習4、5、p.49、とその答え例



7-2-1 第13課-2のコマイラスト②

第13課-2「思い出すと」の状況イラストは、友人二人が子どものころの思い出を話しているところです。そこにあるコマイラスト②は、以下の通りです。



- ② 山口：毎日勉強させられたし、掃除や料理も手伝わされた。  
 パク：へえ。  
 山口：そのときは大変で、お母さんの気持ちがわからなかったけど、今は自分で何でもできるようになって、よかったと思ってる。  
 パク：そっか。  
 山口：今になってあのときのお母さんの気持ちを考えると、とても感謝してるよ。

画像 33：『できる日本語 初中級』第13課-2のコマイラスト②とそのスクリプト

思い返すと、母親はガミガミ言っていたようだし、そのときは、嫌だったようです。誰かに何かを<強制>されて、嫌だったという使役受身の導入です。

ここで「手伝う」の使役受身形が「手伝わされる」になっています。p.229に表「動詞(V)の活用」があり、1グループ(五段活用)の動詞の使役受身形は「使わせられる/使わされる」等となっています。五段動詞の使役受身形に二つの形を認め、コマイラストでは、短縮形の方を採用していることとなります。

7-2-2 第13課-2の「言ってみよう」②の「例」

「嫌いな野菜」という文脈があるところから、<強制>の例のように思われます。

- 例) A：うちの親は厳しかったんだ。  
 B：ふーん。  
 A：嫌いな野菜をいつも全部食べさせられた。  
 B：へえ。  
 A：でも、今は何でも食べられるようになって、よかったと思って(い)るんだ。

例) 嫌いな野菜をいつも全部食べます/何でも食べられます

画像 34：『できる日本語 初中級』第13課-2、「言ってみよう」②の「例」、p.184



「言ってみよう」**2**には、4問あり、その①で与えられている文が「行きたくなかったのに、英語の塾へ行きます」、④が「水泳が好きじゃなかったのに、水泳教室に行きます」で、これらの使役は<強制>の用法だと思います。②が「毎日、ピアノを練習します」、③が「いつも家事を手伝います」で、これらは<指示>の可能性もあります。

### 7-2-3 第13課-2の「言ってみよう別冊」**2**の練習2

子どもや夫、後輩が、眉をしかめたり、困った顔をしています。<強制されて嫌だ>という意味の使役受身の練習です。

れんしゅう  
**練習2**  
れい  
例)



⇒ わたし はは まいにち じかん べんきょう  
私は母に毎日3時間、勉強させられました。

はは まいにち じかん  
母 毎日3時間

①  母 野菜

②  父 塾

③  妻 たばこ

④  姉 部屋

⑤  母 毎日

⑥  先輩 ビール

#### 練習2

- ① 私は母に野菜を食べさせられました。
- ② 私は父に塾に通わされました。／通わせられました。
- ③ 私は妻にたばこをやめさせられました。
- ④ 私は姉に部屋を掃除させられました。
- ⑤ 私は母に毎日、犬の世話をさせられました。
- ⑥ 私は先輩にビールを飲まされました。／飲ませられました。

画像 35 : 『できる日本語 初中級』 第13課-2、「言ってみよう別冊」**2**の練習2、p.51、とその答え例

7-3-1 第13課-2のコマイラスト③

<許可>の使役に-テクレル、-テモラウが後接した言い方の導入です。



山口：パクさんのうちはどうだった？

パク：私の両親も教育には熱心だったけど、そんなに厳しくなかった。やりたいことはだいた  
いさせてくれたよ。小学生のときは水泳を習わせてもらったし、高校生のときは友達と  
旅行に行かせてもらった。

山口：へえ。そうなんだ。

パク：私も子どもには好きなことをさせたいと思っているんだ。

画像 36：『できる日本語 初中級』第13課-2のコマイラスト③とそのスクリプト

7-3-2 第13課-2の「言ってみよう」③

- ③ 例) A：Bさんのうちはどうだった？  
 B：私の両親は教育には熱心だったけど、そんなに厳しくなかった。  
 A：へえ。  
 B：やりたいことはだいたいいさせてくれたよ。  
 小学生のとき、絵を習わせてもらって、うれしかった。



画像 37：『できる日本語 初中級』第13課-2、「言ってみよう」③、p.185

コマイラストで導入された「使役形+テクレル/テモラウ」の定着のための練習です。

7-3-2 第13課-3の「言ってみよう別冊」**3**

**3** れんしゅう  
**練習1**  
れい  
例)



⇒ <sup>はは</sup>母は<sup>わたし</sup>私に<sup>なら</sup>ギターを習わせてくれました。

⇒ <sup>わたし</sup>私は<sup>はは</sup>母に<sup>なら</sup>ギターを習わせてもらいました。

①  <sup>ちち</sup>父

②  <sup>あね</sup>姉

③  <sup>あに</sup>兄

④  <sup>ちち</sup>父

⑤  <sup>はは</sup>母

⑥  <sup>ちち</sup>父

**3** **練習1**

- ① 父は私に車を運転させてくれました。／私は父に車を運転させてもらいました。
- ② 姉は私に化粧品を使わせてくれました。／私は姉に化粧品を使わせてもらいました。
- ③ 兄は私に漫画を読ませてくれました。／私は兄に漫画を読ませてもらいました。
- ④ 父は私を大学へ行かせてくれました。／私は父に大学へ行かせてもらいました。
- ⑤ 母は私を旅行に行かせてくれました。／私は母に旅行に行かせてもらいました。
- ⑥ 父は私を留学させてくれました。／私は父に留学させてもらいました。

画像 38 : 『できる日本語 初中級』 第13課-2、「言ってみよう別冊」**3**の練習1とその答え例、p.51

「言ってみよう」の発展で、「使役形+テクレル」と「使役形+テモラウ」の練習です。  
以下の練習2は、<許可>されなかった場合です。



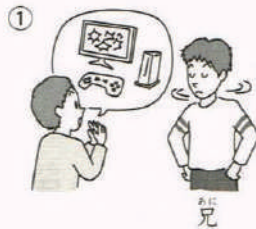
れんしゅう  
練習 2

例)



⇒ 母は私に一人暮らしをさせてくれませんでした。

⇒ 私は母に一人暮らしをさせてもらえませんでした。



練習 2

- ① 兄は私にゲームを使わせてくれませんでした。／私は兄にゲームを使わせてもらえませんでした。
- ② 父は私にアルバイトをさせてくれませんでした。／私は父にアルバイトをさせてもらえませんでした。
- ③ 母は私に学校を休ませてくれませんでした。／私は母に学校を休ませてもらえませんでした。
- ④ 母は私にダンスを習わせてくれませんでした。／私は母にダンスを習わせてもらえませんでした。
- ⑤ 母は私を夜遅くまで遊ばせてくれませんでした。／私は母に夜遅くまで遊ばせてもらえませんでした。
- ⑥ 姉はカラオケで私に（歌を）歌わせてくれませんでした。／私は姉にカラオケで（歌を）歌わせてもらえませんでした。

画像 39 : 『できる日本語 初中級』 第 13 課-2、「言ってみよう別冊」③の練習 2、p.52、とその答え

7-4 ここでは、学習項目ごとに、「チャレンジ」のコマイラスト、「言ってみよう」、「言ってみよう別冊」、を並べました。教科書では、「聞いてみよう」、「コマイラスト」、「言ってみよう」、「言ってみよう別冊」、「話読聞書」と学習を進めていく中で、一つの学習項目をくり返し学習していくようになっています。

豊富なさし絵とまとまった文章で、場面が明確になるよう配慮され、これが『できる』の大きな特色です。全体的に、音声言語の活動による日本語の習得を目指していますが、「話読聞書」では、まとまった内容の書記言語により、学習項目のさらなる定着をうながしています。

田舎は自然がたくさんあるし、  
空気もきれいなので、体にもいいです。子どものときは自然の中で  
たくさん遊ばせたほうがいいと思います。

画像 40 : 『できる日本語 初中級』第 13 課「話読聞書」の一部、p.186

## 7-5 『できる日本語 中級』

『できる日本語 中級』では、全 20 課中、第 8 課（画像 41、43）、10 課（画像 42）、13 課（画像 44）に以下の表現が取り上げられています。

### 2. ～(さ)せていただけませんか

① A : すみません、頭が痛いので早く帰らせていただけませんか。

店長 : 大丈夫ですか。わかりました。気を付けて帰ってくださいね。

② A : すみません、あさっての回収日まで古い冷蔵庫をごみ置き場に置かせていただけませんか。

管理人 : じゃあ、邪魔にならないように置いといてくださいね。

画像 41 : 『できる日本語 中級』第 8 課、「使ってみよう」p.105

### 1. ～(さ)せていただきます

① では、Aグループの発表をさせていただきます。

② 本日は社員旅行につき、休ませていただきます。

画像 42 : 『できる日本語 中級』第 10 課、「使ってみよう」、p.135

「使役形+テイタダケマセンカ」、「使役形+テイタダキマス」は、かしこまった場面で使われる表現で、『日本語表現文型』の5<恩恵>、『みんなの日本語 初級Ⅱ』、『IMJ』でも取り上げられています。

#### 4. ～(さ)せる [V-使役形] \*Vは気持ちを表す動詞

- ① お客さんの目の前でお皿を割って驚かせてしまった。
- ② 彼は恋人を喜ばせるために、サプライズパーティーの準備をした。

画像 43 : 『できる日本語 中級』 第 8 課、「使ってみよう」、p.108

気持ちを表す動詞の使役受身形で、「ドキドキさせる」、「感動させる」は『日本語表現文型』の 1-c<人>の用法です。『みんなの日本語 中級 I』でも取り上げられています。

#### 2. ～(さ)せられる [V-使役受身形]

- ① この映画は意外な展開の連続で、最後までドキドキさせられた。
- ② 平和を訴える少女のスピーチに感動させられた。

画像 44 : 『できる日本語 中級』 第 13 課、「使ってみよう」 p.175

p.174 の本文には、「人はやっぱり外見ではないと考えさせられる映画でした」という文で現れます。「思わされる」、「泣かされる」など気持ちを表す動詞の使役受身形で、使役であっても<強制>ではありませんし、受身であっても<迷惑>のニュアンスはありません。

### 8.8 用法のパラメータ分析

『日本語文型辞典』にある使役の意味的な 8 用法について、パラメータを用意して、分析し、表 1 にまとめました<sup>4</sup>。使役者についてのパラメータは、人か否か、意図、働きかけの有無、被使役者については人か否か、嫌がっているかどうかです、そして、被使役者の行動<sup>5</sup>の受益者が使役者か、被使役者かについても考えました。

<強制>「犯人は銀行員に現金を用意させた」のパラメータを見ると、使役者は「犯人」で「ヒト」(+ ) であり、「現金を盗む」という「意図」(+ ) があって、銀行員に「働きかけ」(+ ) ます。被使役者の「銀行員」も「ヒト」(+ ) で、「嫌がっている」(+ ) ことが予想されます。そして、被使役者の行動「現金を用意する」の受益者は「犯人」で、使役者 (+ ) です。<強制>の場合、被使役者が利益を得るか否かは関与していない ( / ) と考えました。

<放任>「疲れているようだったので、そのまま眠らせておいた」で、使役者は被使役者に働きかけをしません (- )。そして、被使役者が嫌がるか否かは未知数です。眠らせておいてくれたのなら「-」ですし、「足が痺れていたようだが、そのまま正座させておいた」なら「+」です。「行動の受益者」ですが、被使役者の行動が「眠る」なら、被使役者が「+」、「正座する」なら「-」です。

<介護>の例文に「子供にミルクを飲ませる時間です」とあります。「ミルクを飲みなさい」と言った

<sup>4</sup> 表では、<原因 1>を加え、8 用法の<原因>を<原因 2>としました。

<sup>5</sup> たとえば、「犯人は銀行員に現金を用意させた」における「被使役者の行動」は、「現金を用意する」です。

用法名	例文	使役者			被使役者		行動の受益者	
		ヒト	意図あり	働きかける	ヒト	嫌がっている	使役者	被使役者
強制	犯人は銀行員に現金を用意させた	+	+	+	+	+	+	/
指示	社長は秘書にタイプを打たせた	+	+	+	+	-	+	/
放任	疲れているようだったので、そのまま眠らせておいた	+	+	-	+	±	/	±
許可	社長は給料を前借りさせてくれた	+	+	+	+	-	/	+
介護	子供にミルクを飲ませる時間です	+	+	+	+	±	/	+
自責	子どもを事故で死なせてしまった	+	-	-	+	/	-	/
放置	風呂の水をあふれさせるな	+	±	±	-	-	/	/
原因	フロンガスが地球を温暖化させている	-	-	-	-	-	/	/

表1：『日本語文型辞典』の意味的8用法のパラメータ分析

のなら、＜指示＞です。＜介護＞であるのは、「子供」というのが乳児で、哺乳瓶をくわえさせたからだと考えました。＜介護＞には使役者による被使役者への介護行為が必要です。「嫌だという老人の手をとり、庭を歩かせた」を＜介護＞と考えます。この場合、被使役者の老人は「嫌がっている」（+）です。でも、歩くことはその老人のためになっているはず（行動の受益者、+）。

＜放置＞「風呂の水をあふれさせるな」で、使役者はわざとあふれさせていたかもしれないし、栓を閉め忘れてただけかもしれません。ですから、「意図」は「±」です。「働きかけ」は、栓を開けたのなら「+」、閉めなかったのなら「-」です。

『みんなの日本語 中級』には「泣かせる」、「安心させる」（3-2 参照）、『できる日本語 中級』には「驚かせる」、「喜ばせる」（画像 43）という気持ちを表わす動詞の使役文が示されています。これらを意味的8用法に分類すると、＜原因＞でしょう。ただ、8分類の＜原因＞の使役者、被使役者は、どちらもモノ、コトを想定しています。ここでは、気持ちを表わす動詞の使役文を＜原因1＞として表1に加え、使役者、被使役者がモノ、コトの使役を＜原因2＞としました。

## 9. 教材ごとの8用法一覧

『文化初級日本語』、『みんなの日本語 初級』、『学ぼう！にほんご 初級』、『An Introduction to Modern Japanese』（『IMJ』）、『初級日本語 げんき』、『できる日本語 初中級』で、『日本語文型辞典』の意味的8



	強制	指示	放任	許可	介護	自責	放置	原因
文化初級日本語	○	/	/	/	/	/	/	/
みんなの日本語 初級	○	○	○	○	/	/	/	/
学ぼう！にほんご 初級	○	○	○	○	/	/	/	/
IMJ	/	○	/	○	/	/	/	/
初級日本語 げんき	○	○	○	○	/	/	/	/
できる日本語 初中級	/	○	○	○	/	/	/	/

表 2：教材ごとの 8 用法一覧

用法のどれが取り上げられているかを調べて、表 2 にしました。

<介護>、<自責>、<放置>、<原因>は、取り上げられていません。<介護>は、その立場にいる人なら使いますが、一般的には使用頻度が低いと思われます。<放置>は、「凍る」「湿る」のように対応する他動詞がない自動詞を、他動詞と同じように使う用法」（『日本語文型辞典』p.131）ということで、教授、学習が難しいからでしょうか。<自責>は文学的、<原因>は論説などの硬い文体で用いられる用法で、初級、初中級の教材には不向きなのでしょう。<自責>「子どもを事故で死なせてしまった」、<原因>「フロンガスが地球を温暖化させている」は、初級文法で「子どもが事故で死んでしまった」、「フロンガスが原因で地球が温暖化している」と言い換えられます。

『文化』には<強制>しかありません。これは、本文、例文に見られる文脈、そして、さし絵の表情から判断しました。他の用法を取り上げていないのは、一つの形に一つの意味をまず身につけさせようという配慮だと思います。

一方、『IMJ』と『できる』には、<強制>の意味での使役がありません。物事を<強制>すること自体が、日常的ではないからでしょうか。

#### 10. 早津の「つかいだて」と「みちびき」

早津（2016）は、p.85 で「使役文の文法的な意味として、「強制」と「許可」という大きな 2 類が広く知られている」と述べ、p.185 に「別の観点から、「つかいだて」と「みちびき」という捉え方を提案する」としています。

早津（2016）によれば、「太郎は花子に髪を切らせる」の解釈には、以下の四つがあります（p.85）。

I：「髪＝太郎の髪」という解釈

a 太郎は花子に指示して髪（＝太郎の髪）を切らせた。「強制」

b 太郎は、花子が「太郎の髪を切りたい」というので、そうさせた。「許可」

II：「髪＝花子の髪」という解釈

a 太郎は花子に指示して髪（＝花子の髪）を切らせた。「強制」

b 太郎は、花子が「髪 (=花子の髪) を切りたい」というので、そうさせた。「許可」

「Iが「つかいだて」に、IIが「みちびき」にあたる」と指摘し、「つかいだて」というのは、使役主体（他者の動作を引き起こす主体：(3)の「太郎」）が動作主体（動作を行う主体：(3)の「花子」）にある動作を行わせることによって使役主体がその結果を享受するという事態であり、「みちびき」は、使役主体が動作主体に動作を行わせることで動作主体自身がその結果を享受するという事態である」(pp.85-86)と定義しています。

この定義に従うと、行動の受益者が使役者である表1の<強制>と<指示>が「つかいだて」で、受益者が非使役者である<許可>と<介護>、それから、<放任>と<原因1>の「被使役者」が「+」の場合とが「みちびき」だということになります。

### 11. 「書カセル」か「書カス」か

五段動詞「書く」の使役形には、「書かせる」と「書かす」の二つがあり、前者は語幹と活用語尾との間に-aser-が、後者は-as-が挿入されています。

『文化初級日本語』、『みんなの日本語 初級』、『学ぼう！にほんご 初級』、『An Introduction to Modern Japanese』、『初級日本語 げんき』、『できる日本語 初中級』では、-aser-が示され、-as-を取り上げたものは、ありませんでした。これは、五段動詞に接続する使役の助動詞がセルで、「書かせる」がより規範的であること、そして、「書かす」の使用が十分に一般的でないことによると思います。

### 12. 使役受身について

五段動詞の使役受身も2形が認められます。-aserarer-が挿入されたものと、-asarer-が挿入されたものです。前者は-aser-に、後者は-as-に-arer-が後接したものです。どの教材でも、使役の-as-形は取り上げられていませんが、使役受身では、『文化中級日本語』、『IMJ』と『できる日本語 初中級』、『できる日本語 中級』で-aserarer-と-asarer-の両形が示され、『げんき』では、後者「書かされる」しか取り上げていません。一方で、『文化初級日本語』、『学ぼう！にほんご 初級』は、「書かせられる」の形しか示していません。これら二つの教材は、使役から使役受身への形態的一貫性を重視したように見えます。

本稿で分析した9教材で、『みんなの日本語 初級』だけが使役受身を取り上げていません。初級の文法項目とせず、中級にゆずっています。

使役受身の用法には二つあり、一つは<強制>の使役と迷惑の受身の組み合わせ、もう一つが、感情、思考の動詞の使役受身で、<原因>の使役の受身です。後者の用法は、『文化中級日本語』、『みんなの日本語 中級』、『できる日本語 中級』で現れていて、前者の用法の後で学習するようになっています。

### 13. 被使役者をマークするのは、ニカヲか

早津(2014)は、「使役文において動作や変化の主体は、元の動詞が他動詞ならニ格、自動詞ならヲ格で表されるのが普通である（「娘に食器を運ばせる」「娘を公園で遊ばせる」「雨を降らせる」）。ただ、自動詞が意志動作を表すときにはニ格でも表される（「娘[を/に]銀行へ行かせる」）」p.247、と述べています<sup>6</sup>。

<sup>6</sup> 意志動作を表す自動詞の場合、ニでもよいなら、「娘に公園で遊ばせる」もOKとなりそうですが、

『文化初級日本語』、『みんなの日本語 初級』は、自動詞の使役文における被使役者を格助詞「ヲ」、他動詞文では「ニ」でマーク、練習していて、自動詞で「ニ」となる場合についての言及はありません。

『学ぼう！にほんご 初級』は、「本を読ませる」とならべて、「校庭を走らせる」をあげていて、他動詞であることにくわえ、補語がヲ格である場合に、格助詞が「ニ」となると考えているようです。

『できる日本語 初中級』は、「言ってみよう別冊」**1**の練習 2 (画像 31) では「自動詞+ヲ」、練習 4 (画像 32) では「自動詞+ヲ/ニ」を取り上げています。

『初級日本語 げんき』は、使役文における動作や変化の主体は、ニ格で表されるとし、例外として、「泣かせる」、「笑わせる」などの反射運動の場合と、「行く」、「座る」など、もともとヲ格をとらない動詞の場合とは、ヲ格で表されるとしています。確かに、「部員を校庭を走らせる」とは言いづらく、自動詞であることより、その動詞がヲ格の補語をとっていないことの方が重要かもしれません。

『IMJ』も使役文における動作や変化の主体は、ニ格で表されるとし、ヲ格の場合には触れていません。

#### 14. 使役の使用と待遇表現

『IMJ』第 23 課では、母親が娘のみちこに「ちょっとおつかいに行ってきてくれない」と頼み、そのことを、母親がジョンソンに「さっきおつかいに行かせたんです」と言っています。「行ってきてくれない」と授受表現を使って依頼したのなら、それを第三者に告げるときは、「行ってきてもらいました」となってもいいはずですが。「行かせました」は、身内の行動を謙虚に述べる表現で、「おつかいに行ってもらったんです」よりかしこまった印象を与えます。

使役の使用が待遇表現を構成している 1 例です。

#### 15. まとめ

教材によって、取り上げる使役の用法に違いがありました。使役には 2 形あり、必然的に、使役受身にも 2 形あります。それらの扱いにも教材ごとの特徴がみられます。被使役者をマークする格助詞ニ/ヲの扱いも一様ではありません。

教師は、学習者の使っている教材をきちんと分析し、教材の記述に沿いながら、丁寧に提示していかなくてはなりません。

教材分析の知見を活かしながら、使役の用法についても考えました。それが、表 1 です。表を作成することによって、各用法の意味的違いが明確になったように思います。

#### 参考文献

1. グループ・ジャマシイ 『教師と学習者のための日本語文型辞典』 1998、くろしお出版
2. 坂野永理、大野裕、坂根庸子、品川恭子、渡嘉敷恭子 『初級日本語 げんき II』 1999、The Japan Times
3. スリーエーネットワーク 『みんなの日本語 初級 II：本冊』 2013、スリーエーネットワーク
4. スリーエーネットワーク 『みんなの日本語 中級 I：本冊』 1998、スリーエーネットワーク
5. できる日本語教材開発プロジェクト 『できる日本語 初中級本冊』 2012、アルク

---

実際には、言わないでしょう。すべての自動詞で「意志動作を表すときにはニ格でも表される」とは言い切れないようです。

6. できる日本語教材開発プロジェクト『できる日本語 中級本冊』2013、アルク
7. 日本語教育教材開発委員会『学ぼう！にほんご 初級2』2005、専門教育出版
8. 早津恵美子『現代日本語の使役』2016、ひつじ書房
9. 早津恵美子「使役」『日本語文法事典』2014、大修館書店
10. 文化外国語専門学校編『文化初級日本語Ⅱ テキスト 改訂版』2013、凡人社
11. 文化外国語専門学校日本語課程『文化中級日本語Ⅰ』1994、凡人社
12. Mizutani Osamu. Mizutani Nobuko. An Introduction to Modern Japanese. 1977. the Japan Times. Ltd.

### 執筆者一覧

日本語教育研究室室長	馬場 良二
日本語科講師、日本語教育研究室研究員	山下 晃
	丸山 裕美
	今村 美佐子
	鮎田 美代子
国際ビジネス科講師、日本語教育研究室研究員	増田 愛
	福永 裕子

### 編集後記

学生の入国が始まり、あわただしくなった。その中で、研究員は、誤用分析を提出してくれた。来年度は、誤用分析と研究員各自の授業分析とを掲載できればと思っています。

専門学校 湖東カレッジ 日本語教育研究室 室長 馬場 良二

専門学校 湖東カレッジ 日本語教育研究室紀要 2022 第2号

2023年3月31日発行

編集・発行 専門学校 湖東カレッジ 日本語教育研究室

連絡先 馬場 良二

〒862-0909 熊本県熊本市東区湖東1丁目12番26号

☎(096)368-1001 FAX(096)368-1004

E-mail r.baba@coto.ac.jp

*cot•college*